

# 第2 点検及び評価の結果（実施計画の点検評価）

★4つの基本目標、11の基本施策、50の実施計画（主な取組・事業）

第2期教育振興基本計画						
基本目標	基本施策	施策の方向性	通番	主な取組・事業(実施計画)	担当課	評価
1 子どもたちの「生きる力」の育成	(1) 学力の充実・向上	① 主体的に学ぶ子どもの育成	1	主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくり	学校教育課	A
			2	教科学習の充実と指導方法の調査研究	学校教育課	B
			3	英語(外国語活動・外国語)と国際理解教育の推進	学校教育課	B
			4	読書活動の充実(小・中学校)	学校教育課	A
			5	家庭における学習習慣の確立(小・中学校)	学校教育課	B
			6	育ちと学びをつなぐ教育の推進	学校教育課	B
	(2) 心の教育の推進	② 豊かな人間性を育む体験活動の推進	7	道徳教育の充実	学校教育課	A
			8	実態に即した生徒指導(学級経営等)	学校教育課	B
			9	人権教育の充実(小・中学校)	学校教育課	B
			10	体験活動の充実	学校教育課	B
	(3) 健康・安全教育の推進	① 健康教育・安全教育・食育の推進	11	健康教育の推進	学校教育課	A
			12	安全教育(防犯・交通安全)及び防災教育の推進	学校教育課	A
			13	安全管理の充実	学校教育課	A
			14	食育の推進と安全・安心な給食の提供	学校教育課	A
	(4) きめ細かな支援の充実	② 体力向上の取組の推進	15	学校体育・スポーツ活動の推進(小・中学校)	学校教育課	B
			16	特別支援教育の充実	学校教育課	A
	(5) 変化の激しい時代を生き抜く力を育む教育の推進	① 特別支援教育の推進	17	関係機関との連携による発達障がいなどの早期支援	学校教育課 教育支援センター	A
			18	学校における指導体制及び学習環境の充実	学校教育課	A
			19	いじめの問題等への対策	学校教育課	B
			20	教育的支援が必要な子どもへの支援体制整備	教育支援センター	B
			21	キャリア教育の推進	学校教育課	B
			22	英語(外国語活動・外国語)と国際理解教育の推進 プログラミング教育・ICTを活用した教育の推進及び情報活用能力の育成	学校教育課	A
2 持続可能な教育施策推進	(6) 学びを支える環境の整備	① 学習環境等の整備・充実	23	指導内容に対応した教材・備品の配備	学校教育課 教育総務課	A
			24	就学や進学に対する支援体制の充実	学校教育課 教育総務課	A
			25	学校施設安全・快適整備	教育総務課	A
			26	学校施設再整備事業	教育総務課	A
	(7) よりよい学校づくりの推進	② 開かれた学校づくり	27	持続可能な学校指導体制の環境整備	学校教育課	A
			28	教職員の資質能力の向上	教育支援センター	A
	3 生涯を通じた学びの機会を充実	② 地域に広がる学びへの支援	29	地域とともにある学校づくり	学校教育課	A
			30	外部人材の活用	学校教育課	A
			31	公民館市民講座開設事業	中央公民館	C
			32	中央生涯学習センター事業	生涯学習課	A
33			社会教育推進事業	生涯学習課	B	
34			公民館市民講座開設事業【再掲】	中央公民館	-	
(9) 文化・スポーツの振興と文化財の保存活用	③ 文化財の保存と活用	35	図書館サービスの推進・充実事業	図書館	A	
		36	人権教育・啓発推進事業	生涯学習課	B	
		37	長岡京芸術劇場推進事業	文化・スポーツ振興課	B	
		38	文化活動推進・支援事業	文化・スポーツ振興課	C	
		39	総合型地域スポーツクラブ推進事業	文化・スポーツ振興課	A	
		40	スポーツ交流推進事業	文化・スポーツ振興課	C	
		41	スポーツ施設環境の整備	文化・スポーツ振興課	C	
		42	総合的な文化財保存活用の推進	文化財保存活用課	A	
4 地域の学びの場の推進	(10) 家庭・地域・学校の連携・協働による教育の充実	① 地域ぐるみでの育成活動の推進	43	地域見守り活動の推進	生涯学習課	C
			44	地域で支える中学校教育支援事業	生涯学習課	B
			45	家庭教育に関する学びの機会の充実	生涯学習課	B
			46	教育に関する保護者相談体制の充実	教育支援センター	A
			47	児童館子どもの居場所づくり事業(子育てサロン)	北開田児童館	A
			48	家庭における学習習慣の確立(小・中学校)【再掲】	学校教育課	-
	(11) 子どもを健全に育む場の充実	② 体験・交流の場の充実	49	放課後児童クラブ育成事業	生涯学習課	A
			49	すくすく教室推進事業	生涯学習課	A
			50	児童館子どもの居場所づくり事業(子どもの遊び場等)	北開田児童館	B
			50	児童館子どもの居場所づくり事業(子どもの遊び場等)	北開田児童館	B

A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)  
 B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)  
 C: 目標の一部を達成できなかった  
 D: 目標を達成できなかった



## 学識経験者による総評

- 今回は長岡京市第2期教育振興基本計画に基づく最初の点検評価であり、令和3年から令和12年までの10年間の端緒を開く最初の点検評価である。学力や豊かな人間性、健やかな身体の育成、教育環境の整備、学校・家庭・地域の連携協働、文化財の保存・継承・活用など、「長岡京市の教育が目指す姿」の達成に向けた様々な取り組みが展開され、概ね良好であったと評価することができる。
- 目標指標の達成率が80%以上の割合については90%となっており、数値の面からも概ね良好であると評価している。基本目標の3と4については目標の一部を達成できない項目も見られたが、新型コロナウイルス感染症の影響による社会教育活動や施設の利用などに大きな落ち込みから、回復されつつある。引き続き、活性化を期待する。
- 課題が明らかになった事項については、その原因の分析を期待する。
- 今後、目標が達成された取組や、改善が見られない取組については、取組の見直しや取り止めなどの検討があってもよいと考える。



## 基本目標 Ⅰ 子どもたちの「生きる力」の育成

### 【基本施策(Ⅰ) 学力の充実・向上】(通番 Ⅰ～Ⅵ)

#### 【実現したい学びの姿】

新学習指導要領実施を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を推進し、主体的に学ぶ子どもを育てています。また、保育所(園)・こども園・幼稚園・小学校が連携し、育ちと学びをつなぐ教育の円滑な接続が図られています。

#### 【通番 Ⅰ 主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくり】

##### 主な取り組み

- 「総合的な学習の時間」では、具体的に目標を設定して調査・研究・発表をする等、その達成方法についてグループで話し合い、課題を共有・解決しながら目標を達成するという学習を展開。その過程では、他教科で学んだ知識や技術を活用・応用したり、それぞれ子ども同士で意見を出し合ったりしながら、主体的に思考し表現することや、協働しあうことについて学習。
- 新学習指導要領の全面実施(小学校・令和2年度、中学校・令和3年度)に伴い、「外国語活動の充実」「道徳の教科化」「プログラミング教育を含む情報活用能力の育成」等の取り組みを通じて、主体的・対話的で深い学びを目指す授業、課題解決型の授業等を展開。
- 新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導や評価についての研修を実施。

##### 評価(成果と課題)

- 新学習指導要領の趣旨を踏まえて、「教科」や「総合的な学習の時間」などで教科等横断的な活動や体験的な活動を行うことにより、主体的に思考・表現する学びや、子ども同士が話し合うことにより、対話的で協働的な学びを得ることができました。
- 従来型の一斉指導による授業が行われている現状もあるため、主体的に思考・表現する学習活動や、子ども同士が学び合い、協働しあう学習の場を提供するという目的意識を、教職員全体で共有することが必要です。

#### 【通番 Ⅱ 教科学習の充実と指導方法の調査研究】

##### 主な取り組み

- 各小中学校では、学校における指導目標を明確にし、導入や展開の工夫や、デジタル教科書等の ICT 機器を有効活用するなど、効率的かつきめ細やかな指導を実施。
- 各校の課題に応じて、大学の教員を校内研修会の講師として招聘し教職員の指導力向上を図った。

○全国学力・学習状況調査、京都府学力診断テストの分析を行い、その結果を校長会議等でフィードバックするとともに、少人数授業、少人数学級、チーム・ティーチングなどを実施。ホームページに分析結果を掲載。

○基礎基本の定着と学習意欲の向上に向けた支援として学力向上サポーターを配置（中学校）。

### 評価（成果と課題）

○コロナ禍ではありましたが、感染対策を講じながら研究指定校による公開授業や研究発表会を行い、教職員の指導力向上に結び付けることができました。

○全国学力・学習状況調査の結果から、平均正答数の1/2以下の児童生徒の割合（学力低位層）は、小学校の算数以外は、令和元年度より減少しました。※R2調査はコロナ禍で中止

○児童生徒一人につき一台のタブレット端末を本格導入し、どの授業でも積極的な活用を図ったことで、児童生徒の興味関心を高め、学習内容の理解を深めることができました。

○中学校では学力向上サポーターを配置し、基礎基本の定着と学習意欲の向上に向けた支援を行いました。

○基礎的・基本的な学力が定着していない児童生徒や、特別な支援や配慮の必要な児童生徒への個別指導・支援を充実させるための手立ての検討が引き続き必要です。

## 【通番3 英語（外国語活動・外国語）と国際理解教育の推進】

### 主な取り組み

○英語を母国語とする英語指導助手（外国人 AET）を中学校に配置。

○英語専科教員の配置とともに、引き続き計7名の外国語活動指導員（日本人 AET）を配置。

○AET のミーティングを月に1～2回実施し、授業実践が充実するよう連携。

○中学3年生対象の英語検定の公費受検を実施。

○感染症の影響により中止となった米国アーリントンへの短期留学について、親善・相互交流を継続するための代替事業として、中学生から英語のメッセージを集め、アーリントンに送付。

### 評価（成果と課題）

○小学校において、高学年は英語専科教員が中心となり、また、中・低学年には日本人 AET と担任が連携して指導に当たることで、英語教育の充実を図ることができました。

○中学生の英語検定の受検については、公費受検制度を利用するなど、対象となる中学3年生の受検率が前年度よりやや上がりました（R2:45.5%、R3:47.3%）。英検3級以上の英語力を有する生徒の割合は55.3%となり、コロナ禍ではありましたが、感染対策を講じながら実施した結果、受検する生徒が増加したため、それが取得率の増加につながったと考えられます。

○指標②については、小学校の英語が教科化されたことに伴い、質問項目が「外国語活動の勉強は好きだった」から、「外国語（英語）の勉強は好きだった」に一部変更されました。今回、66.8%となり、指標を達成することができませんでした。

○子どもたちが分かりやすく、興味関心を持つことができる授業の実施が必要です。

- 英検については、コロナ禍前の受検率（R 元：56.8%）と比べると低いことから、より多くの生徒が受検するよう積極的に周知・勧奨する必要があります。
- コロナ禍でアーリントンとの相互訪問が3年間中止となっているため、交流が途絶えないようにする必要があります。

#### 【通番 4 読書活動の充実（小・中学校）】

##### 主な取り組み

- 文部科学省が定める「学校図書館図書標準」を目標とし、各校において新規図書の購入及び蔵書を整備。また、各校に学校図書館司書を配置し、図書館環境の整備、啓発活動を実施。
- 委員会活動・授業において読み聞かせやブックトークを実施（感染症対策として大型モニターや放送を利用）。また、必要な図書を吟味するための選書会を実施。
- 学校図書館司書を中心に配架やレイアウトを改善。

##### 評価（成果と課題）

- 図書室での密集を避ける等の感染対策を実施しましたが、活動の工夫をするなど、一人あたりの来館回数及び読書冊数は昨年度より増加しました。
- 適切な図書計画により蔵書冊数が充実し、どの学校にも時代にあった図書が揃っています。
- 学校図書館司書の配置により、読み聞かせやブックトーク、本の貸し借りの方法、図書の特色を周知することで、児童生徒の読書活動の充実が図られています。
- 児童生徒がすすんで読書する機会を増やし、確かな学力を育むため、授業等での効果的な活用を進めるとともに、図書館環境の充実に取り組む必要があります。
- 引き続き、適切な蔵書の更新（古い本の廃棄）が課題です。
- 年齢が上がるほど読書冊数が減少する傾向があることや、読書をする・しないの二極化が引き続き課題です。

#### 【通番 5 家庭における学習習慣の確立（小・中学校）】

##### 主な取り組み

- 懇談会や学校からの配布文書や、全国学力・学習状況調査の結果の市ホームページ掲載等により、家庭学習の意義を周知。宿題や課題を通じて学習内容を定着。

##### 評価（成果と課題）

- 令和元年度の状況と比較した実績値は、小学校では 1.8 ポイント増加となり目標を達成できませんでした。中学校では 9.2 ポイント減少し、目標を達成できました。
- 学校の授業時間以外の勉強時間が平日1日当たり「30分に満たない」または「全くしない」と回答した児童生徒がおおよそ1割程度いることが課題です。

## 【通番 6 就学前・小学校・中学校の連携推進】

### 主な取り組み

#### 《もうすぐ一年生事業》

- 小学校生活や施設を紹介するスライドの作成と幼児教育施設への配付
- 小学校入学に向けた幼児教育施設と小学校の連携会議の実施  
(市内10小学校、4公立保育所、5私立幼稚園、8民間保育園、3認定こども園)
- 幼児の小学校における学校体験(施設見学やグラウンドでの遊び)
- 「長岡京市保幼小連携会議全体会1」の開催。(講演会)

#### 《小中連携》

- 進学したい中学校を選ぶことのできる「学校選択制」は例年通り実施。
- 中学校公開の代替措置として、各中学校の教育活動を紹介する資料(スライドによる学校紹介)を作成し、それぞれの中学校のホームページに掲載。

### 評価(成果と課題)

- 幼児にとっては、小学校生活へ期待を膨らませるとともに、不安を解消する良い取組となりました。
- 交流を通して、教職員の保育内容・教育内容についての理解が進み、幼児・児童への指導や支援に生かされました。
- 小学校児童にとっては、幼児と交流することで自己有用感を高める良い機会となるため、直接交流が難しい現在も、プレゼントやお手紙等の間接的な交流を続けました。
- 連携会議全体会や具体的な活動を通して、幼児教育施設、小学校ともに、接続期カリキュラムの重要性についての意識が高まりました。
- 「学校選択制」の実施で、住所ごとに指定された学校以外の中学校に進学する児童に関する引き継ぎを当該小中学校間で行うことにより、小中学校間の連携が強化されました。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、直接的交流や体験を制限してきましたが、保幼小連携の効果は大きく、これまで築いてきた連携体制や連携の取組を継続していけるよう、工夫を凝らして実施できる活動を増やしていくことが必要です。
- 給食体験については、黙食での実施となるため、十分な交流とならないことから、当面は見送ることになります。
- 相互の学びや理解をより深めるために、公開保育や小学校の研究発表会への教員の参加、また、日常的な参観など、可能な限り増やしていくことが必要です。
- 「学校選択制」により中学校を選択する児童の参考となるため、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した「中学校公開」についても、可能な限り、これまで通り実施していくことが必要です。



## 【基本施策(2) 心の教育の推進】(通番 7~10)

### 【実現したい学びの姿】

道徳的な価値について理解を深められているとともに、文化・芸術活動、郷土文化を通じて自尊感情や自己肯定感が高まり、体験活動を通じて豊かな人間性が養われています。

### 【通番 7 道徳教育の充実】

#### 主な取り組み

- 「特別の教科 道徳」の学習では、道徳的課題を「自分事」として捉える時間を設定。多面的・多角的に物事を考え、議論する実践的な授業を実施。
- 授業での学習や道徳性に係る成長の様子を評価することを通して、児童生徒の道徳的な判断力や実践意欲を育成。
- 各校での道徳教育の実践について、地域や家庭へ学校だより等を通して発信。一部の学校では参観日を設けて、保護者や地域の方に授業を公開。

#### 評価（成果と課題）

- 「特別の教科 道徳」を中心に、児童生徒が考えを深め、話し合い、互いに学び合う学習に取り組んだことにより、目標指標を達成することができました。
- 子どもたちの道徳性を育むためには、教科での学習だけでなく、教育活動全体での実践や、家庭や地域社会における一体的な実践が必要です。

### 【通番 8 実態に即した生徒指導（学級経営等）】

#### 主な取り組み

- 日々の学級活動や学校行事での取組を通して、児童生徒同士での話し合いや意思決定の機会を積極的に設定。
- 教職員が児童生徒の生活実態を把握し、内面理解に努めることにより、個々の課題の解決や信頼関係の構築に努めた。
- 京都府警からの出前授業を活用し、全小中学校において非行防止教室を実施。
- 学級活動や行事等を通して、いじめ防止や社会規範やマナー等の意識醸成を図り、適切な人間関係の育成に努めた。

#### 評価（成果と課題）

- 教育活動を通して、人との信頼関係や人間関係づくりの育成につなげ、教職員が児童生徒の抱える課題の実態を把握し、個々に応じた支援・指導を行うことができました。

- コロナ禍で様々な制限がある中、児童生徒同士の話し合いの機会は減りましたが、タブレット端末を活用する等の工夫により、学級活動や学校行事を通して信頼関係づくりに繋げることができました。
- 全校で非行防止教室等を開催する等、学習を通して、社会規範やマナーについての意識醸成を図ることができました。
- 児童生徒の抱える課題が複雑化・多様化しているため、専門的助言を要したり、関係機関との連携が必要なケースが増えています。

## 【通番 9 人権教育の充実（小・中学校）】

### 主な取り組み

- 日常的な指導をはじめ、学年や異学年での交流、人権週間の取組、人権学習の公開授業など、児童生徒の人権意識を高める取組を実施。
- 人権ポスターや人権作文、人権標語への応募などの取組にも積極的に参加。
- 授業ではグループでの話し合いや発表を通じて、集団の中で共に学び合い、児童生徒の人間関係づくりや自尊感情が高められるような取組を実施。
- 体育大会などの各種行事を活用し、互いを理解し合い、集団の中で望ましい人間関係を築くための取組を実施。
- 互いを理解し、望ましい人間関係を築く機会となる、1年生を迎える会などの行事や活動を実施。

### 評価（成果と課題）

- 全小中学校で人権教育全体計画を作成し、各学年の実態に合わせた取組内容を実施することができました。
- 「人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている児童生徒の割合」が基準年度よりも若干減少しましたが、行事等を通して、人間関係を築く取組を行うことで、人権意識を高めることができました。
- 各校で人権教育を計画的に実施することが必要です。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な行事や教育活動が制限される中、人の気持ちを分かることや信頼関係づくりの大切さを実感する機会の確保が求められます。

## 【通番 10 体験活動の充実】

### 主な取り組み

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、文化・芸術活動の機会が確保できるよう市小中学校美術展の開催方法をオンラインに変更して開催。
- 小学校では社会科や総合的な学習の時間などの授業において、恵解山古墳や勝龍寺などの地域の文化財の見学や校区探検などを実施。

### 評価（成果と課題）

- 目標指標に対する児童生徒の割合はいずれの学年においても1割～2割程度減少しました。新型コロナウイルス感染症対策により、文化・芸術活動や体験活動の機会が減少し、豊かな人間性や郷土愛を育む場が十分に確保できなかったことが要因の一つと考えられます。
- コロナ禍で今まで通りの活動が難しい中、活動場所を実地からオンライン上に変更するなどの工夫により、可能な限り文化や芸術に触れる機会を確保することができました。
- コロナ禍で文化・芸術活動や体験活動の機会そのものが減少しました。
- 少ない機会であってもより効果的な文化・芸術活動や体験活動が実施できるよう、適宜、活動内容を工夫したり、見直すことが必要です。

## 【基本施策(3) 健康・安全教育の推進】(通番 11~15)

### 【実現したい学びの姿】

子どもたちが健やかな身体をつくり、健康で安全な生活を送るため、正しい知識が身に付けられているとともに、子どもたちの体力の向上が図られています。

### 【通番 11 健康教育の推進】

#### 主な取り組み

- 保健体育科の学習内容と関連付けながら、京都府警からの出前授業を活用し、全小中学校において薬物乱用防止教室を実施。出前授業では、薬物乱用防止指導員によるDVDやスライド資料を用い、薬物乱用の根絶に向け、発達段階に応じた適切な指導を実施。
- 小中学校において毎月発行する「保健だより」や「給食だより」等を通じて、子どもたちや保護者に対して朝食を摂ることの大切さについて周知・啓発を実施。
- 長期休業前には、朝食を摂ることを含め、生活習慣に留意して過ごすことを指導。また、小学校では、多くの学校が、長期休業明けに「生活リズムチェック」の取組を実施。
- 児童生徒が性に関して正しく理解し、適切に行動をとれるように、保健体育や道徳の授業をはじめ、学校教育全体を通じて指導。

#### 評価(成果と課題)

- 薬物乱用防止教室を実施し、心や体の健康について正しい知識を身に付けるための学習と指導を行うことができました。
- お便りや長期休業前の指導等を通して、朝食を摂ることや生活リズムの大切さを周知し、家庭と連携しながら、子どもたちの健康で安全な生活につなげることができました。
- 薬物乱用防止教室については、学校行事や取組との兼ね合いにより、保健体育科の教育課程の指導時期に合わせて行うことが難しい場合がありますが、子どもたちが関心を持って取り組み、学習内容を定着させるためには、できるだけ同時期に実施していくことが望まれます。
- 毎日朝食を食べている子どもたちの割合は目標値を達成している状況にありますが、その割合がさらに高まるよう、各小中学校にて指導を継続する必要があります。

### 【通番 12 安全教育(防犯・交通安全)及び防災教育の推進】

#### 主な取り組み

- 保健体育(中学校)の授業の中で、防犯に関することや交通安全に関することや、また、自然災害に関することを学習。
- 小中学校共に講師を招いて非行防止教室(小学校:4年生対象、中学校:1年生対象)や薬物乱用防止教

室(小学校:6年生対象、中学校:3年生対象)を実施。

○市交通政策課による自転車の交通安全教室(小学校)等を実施。

○各学校では、地震・火災に対する避難訓練や、不審者対応に関する訓練を実施。

### 評価(成果と課題)

○小中学校共に、外部講師を招き、防犯及び交通安全に関する教室を開催したことで、危険を未然に防ぐことや身を守ることに、より一層の意識付けをすることができました。

○中学校では、保健体育の授業を通して防犯及び交通安全に関することを網羅的に学び、身に危険が迫った際の行動について改めて確認をし、理解を深めることができました。

○小中学校共に夏休み前に非行防止教室及び薬物乱用教室を実施したことにより、長期休業中の問題行動の防止に繋がりました。

○コロナ禍のため、例年に比べ、外部講師の招聘時期の調整に注意を要しました。

○万が一の場合に備え、各種教室の開催、保健体育での学習や避難等訓練を継続して実施することにより、より一層、防犯・交通安全・防災に関する意識付けをすることが必要です。

## 【通番 13 安全管理の充実】

### 主な取り組み

○消防点検・電気点検・エレベーター点検・遊具の点検等、法律に基づいた各種法定点検を実施し、不具合があったものについては修繕を実施。また、樹木医による樹木点検も実施し、危険な樹木については伐採。その他、不具合の発見された事象については随時修繕。

○学校環境衛生基準に照らし、換気・採光・照明及び保温等の点検を実施し、基準を満たしていないものについてはカーテンでの採光調整・電灯の交換・エアコン設定温度の調整等により、改善を実施。

○危機管理マニュアルの作成や更なる充実について、校長会議内で案内。

○全小学校を対象に「通学路安全対策調査」を実施し、地域の方等から各小学校を通して報告された約80件の調査結果を元に、警察や道路管理者等、関係機関の協力のもと、電柱幕の掲示や、薄くなった道路標示の引き直し等の対策を実施。

### 評価(成果と課題)

○各取組をきめ細やかに実施・対応することにより、通学路を含めた学校内外の安全を確保することができました。

○また、点検や改善の実施により安全管理が充実し、整理された状態となっていることから、危機管理マニュアルの作成・更新や学校安全計画の立案がしやすくなりました。

○通学路の安全対策において、根本的な対策が困難かつ長期間を要する危険箇所の対策が課題です。

## 【通番 14 食育の推進と安全・安心な給食の提供】

### 主な取り組み

- 給食だよりや掲示物、委員会活動などを通して栄養バランスの取れた健全な食生活についての周知・啓発を実施。
- 学校給食における食中毒を防止し、衛生的な給食を提供するため、保健所や学校薬剤師の立入検査、市による巡回指導を実施。
- 児童生徒の食物アレルギー対応を確実にを行うため、栄養教諭・栄養職員を中心に全教職員の共通理解を図り、調理・運搬過程におけるチェックを徹底。

### 評価（成果と課題）

- 新型コロナウイルス感染症対策としておかわりを制限している学校もありますが、欠席者分の残食が含まれることを考慮すると、概ね前年（R2 年度実績：（小）1.7（中）2.8）と変わらない低い残食率となっており、バランスよい魅力ある給食を提供することができました。
- 献立によって残食の多い日があることや、個人差が大きい場合があります。個に応じてバランスの取れた栄養量の摂取についても指導していく必要があります。

## 【通番 15 学校体育・スポーツ活動の推進（小・中学校）】

### 主な取り組み

- ふるさと納税を活用し、バスケットゴールやジュニアサッカーゴール、卓球台等の備品を購入。
- 選手派遣補助金制度により、中学校部活動で、京都府大会・近畿大会・全国大会に出場の生徒達に、遠征費を補助。
- 学校体育・文化活動推進事業補助金制度により、各運動部で構成される協議会へ補助金を交付。
- 一部の中学校部活動では、専門的な知識や技能を持ち合わせている外部講師を招き、指導を受ける取組を実施。
- 感染症対策を講じながら体育の授業に取り組み、できる限り運動量を確保。

### 評価（成果と課題）

- コロナ禍で制限があるなか、外部講師を招聘した部活動の実施や、ふるさと納税を活用した備品等購入、また、各種補助金の交付の実施により、児童生徒の運動することに関する遊びや体育の授業、部活動等の取り組みの充実が図られました。
- 一方で、令和元年度の状況と比較し、目標指標の割合は、小学校5年生男子では19.4ポイント、女子では25.6ポイント、中学校2年生男子では0.6ポイント、女子では6.9ポイントと、いずれも増加し、全体的に体力の低下が見られました。
- コロナ禍において、体育の授業等で様々な制限があり、体力・運動能力の向上につながる運動量を十分に確保できなかったことが課題です。
- また、特に中学校2年生女子の持久走において、京都府平均・全国平均を大きく下回る結果となりました。

## 【基本施策(4) きめ細かな支援の充実】(通番 16~20)

### 【実現したい学びの姿】

障がいや不登校、いじめ・虐待など様々な背景をもつ子どもたちに対し、関係機関と連携し、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導が行われています。

### 【通番 16 特別支援教育の充実】

#### 主な取り組み

- 全ての特別支援学級・通級指導教室の児童生徒に対して個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成し、各校での作成状況を教育委員会による点検を実施。
- 児童生徒の実態を踏まえ、小学校に特別支援教育支援員、中学校に学力向上サポーターを配置。

#### 評価(成果と課題)

- 個別の教育支援計画の様式を改訂したことにより、児童生徒の支援にかかる各小中学校と保護者との連携をより図ることができました。
- 特別支援教育支援員や学力向上サポーターを配置したことにより、児童生徒の学習面・生活面においてきめ細かな支援、指導を行うことができました。
- 各小中学校において、特別な支援を要する児童生徒が増加傾向にあります。
- 通級指導教室は、各小学校に1~2教室、中学校には、計2教室を設置していますが、通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒への支援体制の充実が求められます。

### 【通番 17 関係機関との連携による発達障がいなどの早期支援】

#### 主な取り組み

- 小中学校では、各校の児童生徒の実態に応じて、特別支援学校や盲学校、聾学校等の巡回相談員に巡回相談を依頼し、必要な指導上の助言を受けた。
- 就学前相談では、庁内の関係機関(健康づくり推進課・障がい福祉課・子育て支援課)と情報を共有の上、教育支援センターと学校教育課が連携し、幼児教育施設へ訪問。訪問先の幼児教育施設では、児童の行動観察や指導者・保護者との面談を行い、最も適した学びの場について審議。
- 各校からの就学相談の依頼については、教育支援センターと連携し、発達検査や保護者面談を行い、早期支援を実施。

#### 評価(成果と課題)

- 特別支援学校や盲学校・聾学校等の巡回相談を継続的に受けたことにより、障がいに応じた指導のポイントや教材作成についての理解が深まり、児童生徒への支援が充実しました。

- 病弱児学級の新設にあたっては、健康づくり推進課の担当保健師や幼児教育施設と連携し、適切な学習環境の整備を行うことができました。
- 就学相談の依頼を受けて発達検査を実施し、適切な支援の方法について、学校・保護者と情報共有ができました。
- 増加する就学相談に対し、担当教員の専門性の向上と教育支援センターの相談体制の確保が課題です。
- 最新の発達検査(WISC-V)ができる人材を育成するために、研修を受講できる機会の確保が必要です。

## 【通番 18 学校における指導体制及び学習環境の充実】

### 主な取り組み

- 市特別支援学級担任会や通級指導者担当者会等を計画的に実施。
- 特別支援コーディネーターを中心とした情報共有を行い、指導内容等に係る検討の場を定期的に設定。
- 特別支援教育に関する理解や指導の充実のため、各校での校内研修や、教育支援センター等関係機関と連携した研修を実施。
- ながおかきょう“リンク・ブック”を活用し、児童生徒の特性に関する理解を深め、個々の状況に応じて指導を工夫。

### 評価（成果と課題）

- 特別支援コーディネーターを中心として情報共有を行い、検討の場を定期的に設けたことにより、充実した指導体制となりました。
- 保護者との連携のもと、ながおかきょう“リンク・ブック”を活用し、児童生徒の特性に関する理解を深めることにより、個々の状況に応じた指導上の工夫を行うことができました。
- 児童生徒が持つ特性が多様化しているため、個々の教育的ニーズを的確に把握し、より一層きめ細かな指導をする必要があります。
- 特別支援教育の中心を担う人材の育成と校内全体の指導力の向上が課題です。
- 通級指導教室での指導が必要な児童生徒が増加傾向にあるため、支援体制の充実が求められます。

## 【通番 19 いじめの問題等への対策】

### 主な取り組み

- 年間2回のいじめ調査（いじめアンケート、聞き取り）を行い、「いやな思いをした」児童生徒については、約3か月後に追跡調査を実施。併せて、いじめの未然防止、早期発見・対応に向け、定期的にいじめ対策委員会を中心に情報を共有。
- いじめ等対策指導員を1～2か月に1回程度各校へ派遣し、生徒指導や不登校、虐待等の状況を把握。
- 教職員を対象に、いじめ防止に関わる研修会を全小中学校で開催。



### 評価（成果と課題）

- いじめの認知件数は、小学校中学校共に昨年度よりやや増加しています。各校が確実に認知件数を把握することにより、いじめの未然防止と早期発見への対応に繋がっています。
- 学校は、定期的な問題事象報告だけでなく、いじめの内容によっては速やかに市教委へ報告し、連携・協力しながら対応することができました。
- いじめ等対策指導員が学校を巡回し、児童生徒の出席状況・学習状況・生活環境などを把握し、教職員との情報共有を行うことで、いじめにつながる芽の早期発見に努めました。
- 「冷やし・悪口」が認知件数の大半ではありますが、スマートフォンやタブレット端末を利用したSNS上など、表面化しづらいトラブルが発生しています。
- マスクやソーシャルディスタンスなど、コロナ禍での様々な制限による、児童生徒の不安や心配といったストレスが、対人関係に影響を及ぼしていると考えられます。

### 【通番 20 教育的支援が必要な子どもへの支援体制整備】

#### 主な取り組み

- 教職員対象の研修はコロナの状況を見極めて、集合研修やオンラインで開催。
- 子ども達の発表の場としては、FMおとくにて「わたしの主張発表大会」のラジオ発表を、図書館会議室で「中学生英語暗唱大会」を無観客にて開催。
- 臨床心理士等による心理相談やプレイセラピー（児童生徒の遊戯療法）、特別支援教育士による発達検査と就学相談、児童精神科医によるDr来所相談などを実施。
- 長岡京市公式LINEで教育相談の受付を開始。

#### 評価（成果と課題）

- 不登校に早期対応するために小学校へメンタルサポーターを派遣しましたが、不登校の出現率は増加傾向にあります。
- 不登校となった児童生徒については教育相談を行い、学校、保護者、本人と情報共有しながら状況を判断してプレイセラピー（児童生徒の遊戯療法）やアゼリアひろばにつなげていきました。
- 特別支援学級の児童生徒でアゼリアひろば入級希望者が増えてきています。
- 個別のケースとして、学校と早い段階から連携をしていく必要があります。
- 市の教育支援センターは義務教育機関の対応ですが、義務教育終了後も市の相談窓口を求める声があがってきています。

## 【基本施策(5) 変化の激しい時代を生き抜く力を育む教育の推進】 (通番 21~22)

### 【実現したい学びの姿】

将来の夢や目標を持ち、進路を主体的に選択できるよう、キャリア教育や、グローバル化などの社会の変化に柔軟に対応できる能力を身に付ける教育を推進しています。また、ICT 環境の整備により情報教育のための環境が整っています。

### 【通番 21 キャリア教育の推進】

#### 主な取り組み

- 小学校では教科の学習や総合的な学習の時間を通して、将来就きたい職業について考えを深める学習、中学校では自分の適性や職業観等を知り、自分に合った進路選択について考える指導や学習を実施。
- 一部の小学校と全中学校では、職場見学や職場体験活動の代替として、社会人講師を招いた講演会や仕事体験、社会見学等を実施。地元企業の出前授業では、モノづくりの楽しさを体験しながら、主体的な創造力を身に付ける機会となった。

#### 評価（成果と課題）

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、小学校での職場見学や中学校での職場体験学習は実施できませんでした。
- 多くの小中学校では、社会人講師を招いた講演や社会見学等を通して、職業観や社会的自立について学ぶ機会を持ち、「学びたい」「働きたい」という意欲を高めることができました。
- 職場体験等の実施にあたっては、引き続き地域の事業所等の理解・協力と連携が必要です。

### 【通番 22 プログラミング教育・ICT を活用した教育の推進及び情報活用能力の育成】

#### 主な取り組み

- 国のGIGAスクール構想のもと、児童生徒1人1台のタブレット端末を本格導入し、授業や学校生活において積極的に活用。
- 授業支援アプリの搭載、ICT 活用サポーターの配置、大型モニターとの連動等により円滑な導入を推進。
- 学校での安定運用を図るため、教員向けに操作スキルや授業力向上に係る研修を実施し、ICT 活用サポーターやヘルプデスクによる支援体制を整備。
- 家庭学習での活用や臨時休校等に伴うオンライン学習の実施に備え、インターネット環境のない家庭に対してWi-Fi ルーターの貸出を実施。

#### 評価（成果と課題）

- タブレット端末の本格導入により児童生徒がICT機器を使用する機会が飛躍的に増え、授業や学校行事、家庭学習等におけるタブレット端末の活用推進が図られました。

○指標については「全国学力・学習状況調査」の質問項目から削除されましたが、教育支援センター実施の調査では、タブレット端末の活用によって「勉強が楽しくできた」と答えた児童生徒が9割を超え、小学生の9割以上が「学習に積極的に参加できた」、中学生の約9割が「友達と協力して学習できた」と答えていることから、タブレット端末を活用した質の高い学習活動によって児童生徒の主体的・対話的で深い学びが促進されていると考えられます。

○ICT 機器の活用状況は学年間で異なり、特に小学校低学年での活用が進みにくい点が課題です。すべての児童生徒が必要な資質・能力を身につけ、学びを深められるよう、発達段階に応じた計画的な指導が求められます。

○教員間でICT活用スキルに個人差があるため、引き続き教員向け研修やサポート体制が必要です。

○校内インターネット回線の逼迫が課題です。ICT 機器の効果的な活用による授業の質の向上のため、通信環境の安定化が必要です。

## 学識経験者の意見

○朝食を毎日食べている児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙））は、京都府平均及び全国平均を小中学校とも上回る良好な状態である。さらに言うならば、主食によって副食の品目数が変わってくるので、より多種の食物を好き嫌いなく食べられるよう、児童生徒自身が健康について考えられる食育をすすめることで、より成果が上がるのではないかと思う。

○学校の授業時間以外の勉強時間が平日1日当たり30分に満たない子どもの割合（全国学力・学習状況調査）が1割程度であるが、その原因を分析し、改善、目標達成につなげていく必要がある。また、1割程度というのは、教職員による指導の成果であり、それをさらに減らすには、おそらく学校の資源だけで改善できるものではなく、より広い視点でのアプローチが必要ではないか。

○道徳については工夫して実施されていると思うが、生きる力をはぐくむにあたっては、考え方はひとそれぞれだということ終わるのではなく、話し合いを通じて合意形成し、納得できるところまで考える取組が重要だと考える。

○体験活動については、今後もパンデミックなども想定される中、コロナ禍で培われたノウハウも活用し、コンテンツ開発をしていく必要がある。

## 今後の方向性

### 通番1 主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくり

○市主催の各種研修や、各校での研修、また実践交流を通じて、教職員の「主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくり」の意識を高め、指導力向上と授業改善を進めます。

### 通番2 教科学習の充実と指導方法の調査研究

- 学力向上サポーターや特別支援教育の支援員等の配置を行い、継続して学習支援を行います。
- 各学校での教職員対象の研修の実施や、大学教授等の専門的かつ分析的な視点から指導助言を得ることで、さらに教職員の授業力の向上を図り、授業改善を進めます。
- 「非認知能力の向上による学力向上実践研究」を実施し、専門家の招聘や先進地への視察など、学力向上につながる取組を進めます。

### 通番3 英語(外国語活動・外国語)と国際理解教育の推進

- 今後も小学校外国語活動指導員や専科教員を配置し、外国語活動・英語科が充実できるように進めていきます。
- 更なる学習活動の充実を図るため、タブレット端末を活用する等、児童へ分かりやすく効果的な学習を実施します。また、教職員の研修やAETのミーティングを実施します。
- 英語検定公費受検については、受検者増加を目指し、英語の授業等で生徒への周知・勧奨を行っていきます。コロナ禍前の状況に戻し、年3回実施の機会を設定し、受検機会を逸さないよう周知・案内を進めます。
- アーリントン短期留学では、令和5年度の訪問を目指し、準備を進めます。

### 通番4 読書活動の充実(小・中学校)

- 引き続き、「学校図書館図書標準」を目標とし、蔵書の整備・更新を行います。
- 各校に学校図書館司書を配置し、図書館環境の充実と児童生徒への読書活動の啓発を行います。
- 読書をする・しないの二極化や読書冊数の減少傾向を改善するため、引き続き図書館環境の整備を行い、授業や委員会活動等を通じた読書啓発活動を進めます。

### 通番5 家庭における学習習慣の確立(小・中学校)

- 「ほけんだより」の発行など、教職員及び養護教諭から保護者宛に発出するお便り等を通じて、生活習慣から家庭学習の習慣化を見直す取り組みを、継続して行います。
- 家庭学習の大切さや意義について家庭の理解が深まるよう、個々の児童生徒の状況に応じて引き続き懇談会等で周知します。

### 通番6 就学前・小学校・中学校の連携推進

- 新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、コロナ禍以前の実践や取組に戻していきます。
- 学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針等に基づいた幼小接続の在り方について、交流・研修の場を設けていきます。
- 市内全ての小学校と幼児教育施設の連携のもと、教職員だけでなく保護者も含めた保幼小連携の取組となるよう、工夫や改善を行っていきます。

○学校選択制を継続的に実施します。
<b>通番 7 道徳教育の充実</b>
○子どもたちの道徳性を養うため、引き続き教科での学習や教育活動全体での実践を推進します。 ○子どもたちの道徳的実践力を促進するため、引き続き家庭や地域社会との連携に取り組みます。
<b>通番 8 実態に即した生徒指導(学級経営等)</b>
○学級活動や学校行事での取組を通して児童生徒の関係づくりを育成します。 ○非行防止教室を引き続き実施し、児童生徒が社会規範やマナーを身に付けられるよう取り組みます。 ○複雑多様化する児童生徒の課題に対して、実態把握と適切な指導、関係機関等との情報共有と連携に努めます。
<b>通番 9 人権教育の充実(小・中学校)</b>
○基本的人権を尊重する心と様々な人権問題の課題解決に向かう態度を育成するため、引き続き、各校の人権教育全体計画に基づき、各校の実態と発達段階に合わせた人権学習を実施します。
<b>通番 10 体験活動の充実</b>
○新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、文化・芸術活動や体験活動の機会創出をコロナ禍以前の水準に戻していきます。 ○子どもたちの豊かな人間性と郷土愛が育まれるよう、郷土文化学習の活動目的を明確化し、より効果的な体験活動を実施します。
<b>通番 11 健康教育の推進</b>
○小中学校において、子どもたちが心身ともに健康で安全な生活を送れるよう、各取組を継続して実施します。 ○子どもたちの生活習慣の定着を目指して、朝食を食べることの大切さを引き続き周知・啓発するとともに、家庭と連携した健康管理と指導を継続します。
<b>通番 12 安全教育(防犯・交通安全)及び防災教育の推進</b>
○コロナ禍の状況を見ながら、外部組織や講師を招聘する機会や時期を、コロナ禍以前の状態に戻し、非行防止教室や安全対策に係る取組を実施します。 ○引き続き、防犯・交通安全・防災に関する各種教室の開催や保健体育での学習・避難等訓練を実施します。
<b>通番 13 安全管理の充実</b>
○根本的な解決が困難かつ長期間の対策を要する危険箇所については、関係機関に協力を要請しながら、継続的に取り組んでいきます。 ○年度を超えて対策が必要な案件に関しては、「交通安全プログラム」等、複数年での対策が必要な案件を多く取り扱う、別の取組でも取り扱う等の工夫をします。
<b>通番 14 食育の推進と安全・安心な給食の提供</b>

- 学校給食を通して、子供たちの健康増進や食育の充実に取り組みます。
- 引き続き、食中毒を防止し、食物アレルギー対応を徹底することで、安全・安心でおいしい給食を提供します。

#### 通番 15 学校体育・スポーツ活動の推進(小・中学校)

- 引き続き、部活動での外部講師の招聘、ふるさと納税の活用、各種補助金の交付を実施し、部活動やその他の行事の充実を図ります。
- 感染対策のため、水泳の授業や、身体接触を多くする球技、また器具を使い回す器械体操等の種目が実施できなかったことや、実施したとしても、できるだけ間隔を空けての実施等、本来の動きに制限がかかる種目がありましたが、体力・運動能力の向上につながる運動量を確保するため、可能な限り、コロナ禍以前の状況に戻していくよう取り組みます。

#### 通番 16 特別支援教育の充実

- 引き続き、小中学校に特別教育支援員・学力向上サポーターを配置し、特別な支援を要する児童生徒に対して個々の教育的ニーズに合ったきめ細かな支援を行います。
- 保護者との連携を図り、児童生徒の実態と教育的ニーズを踏まえた個別の教育支援計画等の充実に取り組みます。
- 各学校の状況を踏まえ、通級指導教室の効果的な設置と運営を進めます。

#### 通番 17 関係機関との連携による発達障がいなどの早期支援

- 引き続き就学相談等において関係機関と連携・情報共有を密に図り、児童生徒に必要な支援を早期かつ適切に行います。
- 研修等を通して担当教員の専門性を高め、増加する就学相談に適切に対応します。
- 最新の発達検査(WISC-V)ができる人材を育成するため、関連研修についての情報提供を行います。

#### 通番 18 学校における指導体制及び学習環境の充実

- 市特別支援学級担任会や通級指導者担当者会等を計画的に実施し、専門性を持った人材育成と指導力の向上に取り組みます。
- 各校では、引き続き特別支援コーディネーターを中心とした研修を積み重ね、特別支援教育に対する学校全体の理解と指導力の向上に取り組みます。
- 各学校の状況を踏まえ、通級指導教室の効果的な設置と運営を進めます。

#### 通番 19 いじめの問題等への対策

- 引き続き、いじめ等対策指導員が学校を巡回し、児童生徒の生活環境等を把握し教職員との情報共有を行います。
- 「いじめ防止等のために～教職員用ハンドブック～」等を活用しながら計画的に研修を行い、全教職員のいじめに対する認識とその対応についての力量を継続して高めていきます。
- 各校においては、教職員の情報共有の場や、いじめ対策委員会を中心に、スクールカウンセラーやまなび生活アドバイザーとの連携、また、学校教育課や教育支援センターといった関係機関とも連携しながら、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等に努め、組織的に対応していきます。

**通番 20 教育的支援が必要な子どもへの支援体制整備**

- 教育支援センターで行うプレイセラピー（遊戯療法）の土曜午前枠の拡充を行います。
- ICTをさらに有効活用するための職員研修を行います。
- 不登校の早期対応のため、引き続き小学校へメンタルサポーターを派遣します。
- 中学校卒業後も切れ目ない支援を行うため、教育と福祉の連携体制整備を検討します。

**通番 21 キャリア教育の推進**

- 児童生徒が学ぶことと自分の将来とのつながりに見通しを持ちながら取り組めるよう、引き続き発達段階に応じたキャリア教育の充実を図ります。
- 児童生徒の意欲を高め、進路選択に必要な知識と力を身につけられるよう、各教科での学習や体験活動等を通じた学習を推進します。
- 中学生の職場体験活動については体験先の事業所等の意向を確認しながら、再開に向けた準備を進めます。

**通番 22 プログラミング教育・ICT を活用した教育の推進及び情報活用能力の育成**

- 児童生徒がタブレット端末を日常的に使用する場面をさらに増やし、ICT機器をより効果的に活用した質の高い授業づくりを実践します。
- 児童生徒の個別最適で協働的な学びにつなげるため、教職員が実践研修等を通して資質・能力の向上を図り、発達段階に応じた指導を分かりやすく計画的に行います。
- インターネット回線の安定化を図り、教育活動や学校生活での効果的な活用推進につなげます。





# 基本目標1 子どもたちの「生きる力」の育成

## 基本施策(1) 学力の充実・向上(通番1~6)

### 【目標指標】

通番	目標指標	これまでに受けた授業で、課題の解決に向けて自分で考え取り組んでいたと考えている児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))					
1①	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小6)76.2 単位 (中3)72.3 (令和元年度) %	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小6)77.7 (中3)85.7				

通番	目標指標	学校の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると考えている児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))					
1②	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小6)75.4 単位 (中3)73.7 (令和元年度) %	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小6)79.2 (中3)81.0				

通番	目標指標	全国学力・学習状況調査の正答数分布状況(平均正答数1/2以下の割合)					
2	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	【小学6年生】 単位 国語6.6 算数3.6 【中学3年生】 国語7.0 数学8.7 英語3.8 (令和元年度) %	目標	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少
		実績	【小学6年生】 国語3.9 算数4.2 【中学3年生】 国語4.3 数学7.6 ※英語実施なし				

通番	目標指標	英語技能検定3級以上の取得率(中学校)					
3①	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	43.5 単位 (令和元年度) %	目標	50以上	50以上	50以上	50以上	50以上
		実績	55.3				

通番	目標指標	小学校時の外国語活動の勉強は好きだったと回答した生徒(中1)の割合(京都府学力診断テスト(生徒質問紙))					
3②	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	74.0 単位 (令和元年度) %	目標	75以上	75以上	75以上	75以上	75以上
		実績	66.8				

通番	目標指標	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと考えている児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))					
3③	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小6)64.6 単位 (中3)61.6 (令和元年度) %	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	※国調査:質問項目削除				

通番	目標指標	児童(小学生)一人あたりの図書室図書の読書冊数					
4①	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	34.2 単位 (令和元年度) 冊	目標	34.5	35.0	35.5	36.0	36.5
		実績	38.8				

通番	目標指標	生徒(中学生)一人あたりの図書室図書の読書冊数					
4②	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	5.8 単位 (令和元年度) 冊	目標	6.0	6.5	7.0	7.5	8.0
		実績	6.6				

通番	目標指標	学校の授業時間以外の勉強時間が平日1日当たり30分に満たない子どもの割合(全国学力・学習状況調査)					
5	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小6)7.4 単位 (中3)19.7 (令和元年度) %	目標	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少
		実績	(小6)9.2 (中3)10.5				

通番	目標指標	もうすぐ1年生事業に取り組む小学校数					
6①	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	10 単位 (令和元年度) 校	目標	10	10	10	10	10
		実績	10				

通番	目標指標	部活動の参観公開や小学校と教育活動の連携を行っている中学校数					
6②	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	4 単位 (令和元年度) 校	目標	4	4	4	4	4
		実績	4				

基本施策(2)心の教育の推進(通番7~10)

【目標指標】

通番	目標指標	これまで受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと考えている児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))					
7	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小6)81.7 単位 (中3)75.9 (令和元年度) %	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小6)82.8 (中3)83.7				

通番	目標指標	学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))					
8①	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)75.0 単位 (中)76.0 (令和元年度) %	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小)72.2 (中)74.4				

通番	目標指標	非行防止教室の開催状況					
8②	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 単位 (中)100 (令和元年度) %	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
		実績	(小)100 (中)100				

通番	目標指標	人権教育全体計画を作成し、これに基づき人権学習を実施している学校の割合					
9①	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 単位 (中)100 (令和元年度) %	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
		実績	(小)100 (中)100				

通番	目標指標	人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている児童生徒の割合(京都府学力診断テスト(児童生徒質問紙))					
9②	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小4)95.0 単位 (中1)98.0 (中2)97.0 (令和元年度) %	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小4)93.9 (中1)96.3 (中2)94.5				

通番	目標指標	今住んでいる地域の自然や歴史について関心がある児童生徒の割合(京都府学力診断テスト(児童生徒質問紙))					
10	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小4)66 単位 (中1)63 (中2)33 (令和元年度) %	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小4)56 (中1)52 (中2)31				

基本施策(3) 健康・安全教育の推進(通番11~15)

【目標指標】

通番	目標指標	薬物乱用防止教室を実施している学校の割合(学校保健等に関する調査)					
11①	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 単位 (中)100 (令和元年度) %	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
		実績	(小)100 (中)100				

通番	目標指標	朝食を毎日食べている児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))					
11②	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)96.5 単位 (中)94.5 (令和元年度) %	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小)96.6 (中)95.0				

通番	目標指標	防犯、交通安全教室を実施している学校の割合					
12	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 単位 (中)100 (令和元年度) %	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
		実績	(小)100 (中)100				

通番	目標指標	小学校通学路の安全点検対策調査の実施					
13	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	全校区実施 単位 (令和元年度) -	目標	全校区実施	全校区実施	全校区実施	全校区実施	全校区実施
		実績	全校区実施				

通番	目標指標	学校給食(副食)の残食率					
14	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)なし 単位 (今後測定予定) (中)1.65 (令和元年度) %	目標	現状と同程度を維持	現状と同程度を維持	現状と同程度を維持	現状と同程度を維持	現状と同程度を維持
		実績	(小)1.6 (中)2.3				

通番	目標指標	体力・運動能力の総合評価D、E層の児童・生徒の割合(全国体力・運動能力、運動習慣等調査)					
15	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小5) 単位 男子26.3 女子25.9 (中2) 男子30.2 女子7.2 (令和元年度) %	目標	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少
		実績	(小5) 男子45.7 女子51.5 (中2) 男子30.8 女子14.1				

基本施策(4) きめ細かな支援の充実(通番16~20)

【目標指標】

通番	目標指標	特別な支援を要する子どもに係る個別の指導計画が作成されている割合					
16	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 単位 (中)100	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
	(令和元年度) %	実績	(小)100 (中)100				

通番	目標指標	関係機関との連携、情報共有					
17	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	連携、情報共有 単位 の実施	目標	連携、情報共有の実施	連携、情報共有の実施	連携、情報共有の実施	連携、情報共有の実施	連携、情報共有の実施
	(令和元年度) -	実績	連携、情報共有の実施				

通番	目標指標	特別支援コーディネーターを中心とした校内指導の実施					
18①	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	指導の実施 単位	目標	指導の実施	指導の実施	指導の実施	指導の実施	指導の実施
	(令和元年度) -	実績	指導の実施				

通番	目標指標	教員は特別支援教育について理解し、児童の特性に応じた指導上の工夫を行っている学校の割合(全国学力・学習状況調査(学校質問紙))					
18②	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 単位 (中)75	目標	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない
	(令和元年度) %	実績	(小)100 (中)100				

通番	目標指標	重大事案発生件数					
19①	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	0 単位	目標	0	0	0	0	0
	(令和元年度) 件	実績	0				

通番	目標指標	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))					
19②	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)98.7 単位 (中)95.9	目標	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない
	(令和元年度) %	実績	(小)96.4 (中)97.7				

通番	目標指標	学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))					
20	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小6)84.7 単位 (中3)81.4	目標	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない
	(令和元年度) %	実績	(小6)81.3 (中3)86.0				

基本施策(5) 変化の激しい時代を生き抜く力を育む教育の推進(通番21~22)

【目標指標】

通番	目標指標	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行った学校の割合(全国学力・学習状況調査(学校質問紙))					
		年度	3	4	5	6	7
21①	現 状 (計画策定時)						
	(小)60.0 単位 (中)75.0 (令和元年度) %	目標	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない
		実績	(小)70 (中)100				

通番	目標指標	職場見学や職場体験活動を行った学校の割合(全国学力・学習状況調査(学校質問紙))					
		年度	3	4	5	6	7
21②	現 状 (計画策定時)						
	(小)100 単位 (中)100 (令和元年度) %	目標	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない
		実績	(小)60 (中)100				

通番	目標指標	授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う児童生徒の割合					
		年度	3	4	5	6	7
22①	現 状 (計画策定時)						
	85.2 単位 (令和元年度) %	目標	86.0	86.5	87.0	87.5	88.0
		実績	※国調査:質問項目削除				

通番	目標指標	情報モラルの指導を実施している学校の割合(教育課程実施状況調査)					
		年度	3	4	5	6	7
22②	現 状 (計画策定時)						
	(小)100 単位 (中)100 (令和元年度) %	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
		実績	(小)100 (中)100				

## 基本目標 2 持続可能な教育施策推進のための環境整備

### 【基本施策（6） 学びを支える環境整備】（通番 23～27）

#### 【実現したい学びの姿】

ICT 活用のための備品の導入や設備改修、配慮が必要な子どもへの支援の充実が図られています。また、児童生徒が安全・安心に学ぶことができる教育環境の充実と、教職員にとって働きやすい環境づくりが進められています。

#### 【通番 23 指導内容に対応した教材、備品の配備】

##### 主な取り組み

- 全普通教室に大型モニターを設置。
- タブレット端末と大型モニターを連動させ、教員だけでなく、子どもが作成した資料等をもとに発表を行うなど、発達段階に応じた活用を推進。

##### 評価（成果と課題）

- 教室内でタブレット端末と大型モニターが容易に連動できるよう必要な機器を配備しました。
- タブレット端末に授業支援ソフトを搭載し、授業での円滑で効果的な活用ができました。
- 指導者用デジタル教科書を配備し、大型モニター等を用いて分かりやすい授業づくりができました。
- タブレット端末用アプリケーションを適宜搭載し、個に応じた学習の環境整備ができました。
- 大型モニターの故障や老朽化への対応が課題です。
- タブレット端末やデジタル教材の活用にあたっては、教員間で個人差があるため、ICT支援員や実践研修等による教員へのサポート体制が必要です。

#### 【通番 24 就学や進学に対する支援体制の充実】

##### 主な取り組み

- 長岡京市就学援助規則に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童、生徒に対して援助費を支給。感染症拡大の影響により所得が減少したり、申請時期を逸した保護者に対しても、個々の状況に合わせて対応。新小中学校1年生の保護者に対し、入学前に新入学学用品費を支給。
- 「市ホームページ」や「学校だより」への掲載、「入学説明会」での案内文書の配布により、就学援助制度についての情報提供を実施。新小学校1年生の保護者へ送付する「就学時健康診断の案内文書」に入学前支給に関する文書を同封し、周知。
- 家庭へのタブレット持ち帰り開始等に伴い、7月から年度末まで、家庭でのWi-Fi環境が整っていない

い家庭に、モバイルルータの無償貸出を実施。

- 京都府及び京都府教育委員会発行の「就・修学及び進学・就職を支援するための援護制度一覧」を常設し、問い合わせ時に制度を案内。

#### 評価（成果と課題）

- 経済的な理由により就学が困難な児童、生徒の保護者に対して、学校生活に係る学用品費等の必要経費の援助やモバイルルータの無償貸出を行い、家庭の負担軽減へと繋がりました。
- また、経済的な理由により高等学校への進学が困難な保護者に対して、奨学金等に関する情報を提供したことにより、経済的支援の充実に図りました。
- コロナ禍で所得の減少や、申請時期を逸した世帯に対する就学援助の柔軟な対応が必要です。

### 【通番 25 学校施設安全・快適整備】

#### 主な取り組み

- 神足小学校は、北西棟・北東棟防水・外壁等改修工事、理科室、家庭科室、図工室への空調設置。また、照明のLED化を進めた。
- 工事（長岡第六小学校・南西棟トイレ改修工事、長岡中学校・体育館・南西棟防水・外壁改修工事、長岡第四中学校・テニスコート整備工事）
- 実施設計（長岡第九小学校・給食室の増改築及びエレベーターの設置、特別教室への空調設置、長岡第三中学校・貯水槽改修工事、長岡第四中学校・貯水槽改修工事）

#### 評価（成果と課題）

- 屋上防水や外壁等の改修、トイレ改修や特別教室への空調設置などを行うことで、学校施設の安全性や快適性を向上させることができました。
- 長岡第九小学校は、児童数増への対応（給食室の増改築、普通教室の確保など）、バリアフリー化の推進（エレベーターの設置）、特別教室への空調設置などの実施設計を行い、学習環境の向上を進めることができました。
- 学校によって、施設の問題や課題が様々なため、状況に応じた対応が必要となります。
- 特別教室の空調設置状況は、学校間で格差が生じています。
- 学校施設においても、照明のLED化などの環境対策の推進が求められています。

### 【通番 26 学校施設再整備事業】

#### 主な取り組み

- 長岡第四小学校再整備の実施設計。再整備工事に先行してプール解体工事を実施。
- 長岡第三小学校再整備は、配置案に対して関係課と協議。

#### 評価（成果と課題）



- 長岡第四小学校再整備は、学校や地域の意見を踏まえた設計が完了しました。
- 長岡第三小学校再整備は、課内や関係課と協議を進め、今後の整備スケジュールの見通しを庁内で共有しました。
- 長岡第四小学校再整備は、工事期間が長期にわたるため、学校運営への影響を最小限に抑えながら、児童や地域住民の安全対策を徹底する必要があります。
- 長岡第三小学校再整備は、隣接する乙訓寺の遺構の状況が設計内容やスケジュールに影響します。また、市内学校施設で初めて環境指標の一つである ZEB (Net Zero Energy Building) 化を検討します。

### 【通番 27 持続可能な学校指導体制の環境整備】

#### 主な取り組み

- 出退勤管理システムにより教職員の在校時間を把握。
- 健康診断やストレスチェックにより教職員の心身の健康状態を確認。各校の衛生推進者から長時間勤務の教職員に対して業務・体調面について個別に声かけをする等の取組を実施。
- 会議や行事等の精選、留守番電話の定着、ノ一部活動デーの設定、外部人材(学校教員支援員、図書館司書、スクールサポートスタッフ等)の配置・活用といった環境整備の取組を実施。

#### 評価(成果と課題)

- コロナ禍の教育活動において、入念な準備や配慮工夫が求められる中、スクールサポートスタッフや市支援員等の人材を配置して、教員の負担軽減を図ることができました。
- 健康診断やストレスチェックを通して教職員の健康維持を図り、会議や行事の見直し等を行って長時間勤務の縮減が図られました。
- ICT 機器や校務支援システムを積極的に活用し、業務を効率的に実施することができました。
- 教職員の在校時間の長時間傾向や負担感の改善が引き続き課題です。
- 保護者対応などの課題に対し、教職員が一人で抱え込むことなく、組織的に対応する学校体制が求められます。

## 【基本施策（7）よりよい学校づくりの推進】（通番 28～30）

### 【実現したい学びの姿】

地域人材の活用や研修等を通して教職員の専門性を高めるとともに、地域、保護者に対して開かれた学校を目指すことで、よりよい学校づくりが図られています。

### 【通番 28 教職員研修事業】

#### 主な取り組み

教職員対象の各種研修会を実施。

- 特別支援教育に係る研修会（講師：関西大学 中尾 茂樹氏・64 名参加）
- 教育課題特別研修会（授業改善）（講師：国際エデュメント協会 森 俊介氏・オンライン）
- 教育課題特別研修会（特別支援教育）（講師：子どもの発達科学研究所 片山 泰一氏・ハイブリッド 150 名参加）
- タブレット端末活用研修：通年 4 回 講師：株式会社わけわけ 野中 健次氏（28 名）
- 課題特化型研修会（学級経営）：通年 3 回 講師：京都文教大学 大前 暁政氏（12 名）
- 課題特化型研修会（特別の教科 道徳）：通年 3 回 講師：立命館大学 牧崎 幸夫氏（12 名）
- 課題特化型研修会（小学校算数科）：通年 3 回 講師：兵庫教育大学 加藤 久恵氏（9 名）
- 課題特化型研修会（教育相談）：通年 3 回 講師：甲子園大学 酒井 律子氏（12 名）

#### 評価（成果と課題）

- 教職員対象の研修はコロナの状況を見極め、集合研修、オンライン研修、ハイブリッド研修で開催しました。
- 研修テーマに沿って講義、課題作成、実践交流、講師への質疑応答を行いました。
- 特別支援教育に係る研修会は集合研修で行い、就学前機関や小学 1 年生担任の積極的な参加が見られました。
- 教育課題特別研修はオンライン及びハイブリッド研修で行いました。
- 課題特化型研修では、連続研修を行うことでより専門的、実践的に行いました。
- 各校に研修会の意図を丁寧に伝え、命令研修ではなく、受講者の研修意欲が高まるように働きかけていく必要があります。
- 研修の時期や状況に応じた研修方法を考慮して開催する必要があります。

### 【通番 29 地域とともにある学校づくり】

### 主な取り組み

- 全ての市内小中学校において、地域関係者を学校評議員として委嘱。
- 令和4年度から「学校運営協議会」の新規設置に向け、規則の新規制定や委員報酬に係る条例改正等の制度整備。
- 学校の取組等のホームページ掲載や、学校だよりの発行を実施。

### 評価（成果と課題）

- 地域関係者を評議員として委嘱したことにより、保護者からだけでなく、地域の方々の意見も聞くことができ、より開かれた学校運営を行うことができました。
- また、各校、取組等のホームページ掲載や、学校だよりの発行等、情報発信を行ったことにより、地域に開かれた学校づくりに寄与しました。次年度は、「学校運営協議会」の設置初年度となるため、円滑な運営に留意が必要です。

## 【通番 30 外部人材の活用】

### 主な取り組み

- 友禅染や和菓子づくり等の体験学習、ボランティアによる読み聞かせ、キャリア教育での講話等の支援を受けた。
- 外部講師を招いた非行防止教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室、地元ゆかりのある方や、地元企業等による出前授業を開催。
- 長岡中学校卓球部、長岡第二中学校剣道部と野球部、長岡第三中学校野球部で、外部講師による指導を受けた。
- 大学教授による「総合的な学習の時間について」の研修の実施や、校内重点研究に合わせた授業改善等に係る研究等、各校での外部講師による教職員研修を実施。
- 授業実践力向上の講座等、教職員が府総合教育センターで開催の教職員向け研修を受講。

### 評価（成果と課題）

- 地域の方々の支援による授業を実施したことにより、地域に対する「開かれた学校づくり」の推進につながりました。
- 大学など外部の専門家や、様々な分野で活躍する人材による研修や指導を通じて、児童生徒だけでなく、教職員も学びを深めることができました。
- 感染症拡大防止のため、職場体験や出前授業等、実施の中止やオンライン開催への変更を余儀なくされた取組がありました。

## 学識経験者の意見

- モバイルルータの貸出については、保護者にとってありがたい取組であると思う。引き続き取り組んでほしい。
- 教職員の研修について、自治体によっては原則座学形式の研修をなくすなど、見直しが図られている。研修の実施にあたっては、教育現場の改善にどうつながるのか、現場に研修成果がどうフィードバックできているのか、検証が必要である。
- 学校運営協議会の設置は努力義務であり、自治体によっては設置が進んでいないところもある。長岡京市では比較的円滑に設置が進んだようであるが、これまで地域と培ってきた関係がより良好なものとなるよう、今後の運営に期待したい。

## 今後の方向性

### 通番 23 指導内容に対応した教材、備品の配備

- 引き続き、普通教室に大型モニター等の掲示装置の設置により、ICTを活用した授業を行える環境を整備します。
- タブレット端末を効果的に活用するため、研修実施や事例共有、ICT支援員によるサポート等を通して教員の活用スキル向上を図ります。

### 通番 24 就学や進学に対する支援体制の充実

- 引き続き、経済的な理由により就学が困難な児童、生徒の保護者に対し、就学援助を実施します。また、モバイルルータの無償貸出も引き続き行います。
- 感染症拡大の影響により、所得が減少したり申請時期を逸した保護者に対しても、柔軟に対応します。

### 通番 25 学校施設安全・快適整備

- 令和2年度に策定した学校施設の個別施設計画を、実態に合わせて適宜改定を行いながら、計画的な改修等を行い、施設の長寿命化を図ります。また、学校現場から要望が高い、未設置の特別教室への空調設置は、令和4年度に実施設計を行い、計画的に設置していきます。
- 学校施設の照明のLED化を検討します。

### 通番 26 学校施設再整備事業

- 長岡第四小学校再整備は、施工者が決定次第、学校や地域住民に対して工事スケジュールや安全対策などを説明します。工事期間中は、学校に進捗状況等を報告します。
- 長岡第三小学校再整備は、乙訓寺の遺構状況確認のため、埋蔵文化財の試掘を行います。また、ZEB化についての情報収集を行います。

#### 通番 27 持続可能な学校指導体制の環境整備

- 各校の実情に合わせて、引き続き業務の負担軽減に取り組みます。
- 健康診断やストレスチェックの受診を勧奨し、衛生推進者を中心に心身ともに健康な職場づくりに取り組みます。
- 教職員が一人で抱え込むことなく組織的に対応する体制づくりを推進します。

#### 通番 28 教職員研修事業

- 早い時期に交渉を進め、著名な講師を招いて開催できるようにします。
- 年度当初に研修日程を周知し、参加を促します。
- 教育の今日的課題に応じて、学校教育課と連携を図った研修会の開催を続けます。

#### 通番 29 地域とともにある学校づくり

- 「学校運営協議会」の設置により、より地域に開かれた学校運営に取り組みます。
- また、各学校では、引き続き学校の取組等をホームページに掲載したり、学校だよりの発行を行います。

#### 通番 30 外部人材の活用

- 引き続き、外部の専門家等の支援を受け、教職員の専門性を高めていくと共に、教育の質の向上を図ります。また、地域人材を活用することで、地域に開かれた学校を目指します。
- 対面での実施がより深い学びを得ることに繋がる取組で、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施ができなかったり、オンライン開催を余儀なくされたものがあつたため、できる限り対面での実施に取り組みます。



## 基本目標2 持続可能な教育施策推進のための環境整備

### 基本施策(6) 学びを支える環境の整備(通番23~27)

#### 【目標指標】

通番	目標指標	日常的に学校全体でICTを活用した授業を行っている学校の割合(全国学力・学習状況調査(学校質問紙))					
23	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)90 単位 (中)100 (令和元年度) %	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小)100 (中)100				

通番	目標指標	就学援助支援事業の実施					
24	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	実施 単位 (令和元年度) -	目標	実施	実施	実施	実施	実施
		実績	実施				

通番	目標指標	特別教室の空調設置率					
25	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	63.8 単位 (令和2年度) %	目標	67.0	73.0	78.0	84.0	90.0
		実績	67.0				

通番	目標指標	長岡第四小学校再整備の進捗状況					
26①	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	基本設計 単位 (令和2年度) -	目標	実施設計	校舎工事	校舎工事	体育館等工事	外構工事、工事完了
		実績	実施設計				

通番	目標指標	長岡第三小学校再整備の進捗状況					
26②	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	配置検討 単位 (令和2年度) -	目標	配置検討	基本設計	実施設計	校舎工事	校舎工事
		実績	配置検討				

通番	目標指標	1ヶ月の時間外勤務が80時間以上の教職員の割合					
27	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	17.2 単位 (令和元年度) %	目標	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少
		実績	14.5				

基本施策(7) よりよい学校づくりの推進(通番28~30)

【目標指標】

通番	目標指標	研修の受講者評価(満足と回答した比率)					
		年度	3	4	5	6	7
28	現 状 (計画策定時)						
	86.7 単位 (令和元年度) %	目標	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない
		実績	95.7				

通番	目標指標	地域関係者を評議員に入れている学校の割合					
		年度	3	4	5	6	7
29	現 状 (計画策定時)						
	(小)100 単位 (中)100 (令和元年度) %	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
		実績	(小)100 (中)100				

通番	目標指標	教育活動に必要な地域などの資源を活用している学校の割合(全国学力・学習状況調査(学校質問紙))					
		年度	3	4	5	6	7
30	現 状 (計画策定時)						
	(小)100.0 単位 (中)100.0 (令和元年度) %	目標	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない	前年度を下 回らない
		実績	(小)100.0 (中)100.0				



## 基本目標3 生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり

### 【基本施策(8) 生涯を通じた多様な学びの充実と人権教育の推進】 (通番31~36)

#### 【実現したい学びの姿】

社会教育施設や講座等が充実され、主体的に学ぶ市民が増えています。また、市民に多様性への理解や人権を尊重する意識が育っています。

#### 【通番31 公民館市民講座開設事業】

##### 主な取り組み

- 少年教育(少年少女発明クラブ11回)、男女共同参画(男女共同参画講座1回、多文化共生子育て講座1回)、高齢者教育(熟年生き生き講座10回)、家庭教育(びよびよクラブ9回、子育てふれあいルーム60回、家庭教育学級2回)、福祉教育(聴覚言語障がい者学級1回)、子育てボランティア養成講座(公民館での子育て事業や各種講座への託児に従事していただくための講座7回)、サポーターふれあいネット(子育てボランティア同士の情報共有の場10回)を実施。
- 市民企画講座は、市民自らが講師となり40企画、125講座を実施。

##### 評価(成果と課題)

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、熟年生き生き講座の参加者が指標策定時の令和元年度と比較すると42.4%と半分以下になったことや子育て世帯も外出を控えられた影響が大きく、参加率は目標を下回る結果となりました。一方で、土日や夜間にも事業を実施することで、参加者からは、コロナ禍において学習の機会があることを喜ぶ声も多く寄せられています。
- 講座終了後にアンケート調査を実施し、集約結果を講師と共有することで、参加者ニーズの把握と次回への取り組み課題への反映につなげており、参加者の満足度は80%~100%となっております。
- 毎年、人気があり同じ方が企画されるものや講座回数が多いものもあるため、今後、講座数が増え続けると、公民館のサークル団体が使える貸し部屋日数が、講座で利用し減ってしまい活動に影響を及ぼすため、全体の講座上限数を決めていく必要があります。

#### 【通番32 中央生涯学習センター事業】

##### 主な取り組み

- 中央生涯学習センターは指定管理者制度により運営(大阪ガスビジネスクリエイト株式会社)。貸室事業のほか、指定管理者の自主事業として、バンビオ展示ウィーク、バンビオファミリー人形劇、落語会、各種講座などを実施。

○生涯学習機関紙「be→!」や「バンビオここから通信」にてイベントの告知や施設利用サークルの紹介などの情報発信を実施。

#### 評価（成果と課題）

○貸室利用率は、新型コロナウイルス感染症対策のための休館や利用制限、イベントの自粛要請等により、コロナ前と比較すると少ないものの、設定した目標を達成することができました。

○感染拡大期の利用者は少ないですが、比較的感染状況が落ち着いている時期には、利用者が戻りつつあります。

○指定管理者の自主事業として講座やイベントを積極的にを行い、事業への参加を通じ、多くの方に新たな学びの機会を得ていただくことができました。

○コロナ禍で生涯学習活動の中止や縮小が続いていたため、再開を支援する必要があります。

○新たな生活様式に基づく貸館運営のあり方について、リモート講座や研修など、利用者のニーズを捉えながら、指定管理者と協議し進めていく必要があります。

### 【通番33 社会教育推進事業】

#### 主な取り組み

○市内の社会教育団体、スポーツ団体、文化団体に対し、収支予算、決算や事業計画、報告に基づき補助金を交付。

#### 評価（成果と課題）

○申請のあった社会教育関係団体に対し補助金を交付し、活動費の面で支援を行いました。また、団体からの相談対応、協議、活動に必要な調整を行うなど、男女共同参画、環境、PTAの連携促進、人権、文化、青少年育成、スポーツといった幅広い分野の地域に根差した社会教育活動に対し、活動費以外の面でも支援も行うことができました。

○退職後も働く方が増えたり、一人親世帯、共働き世帯が増えるなか、地域に根差した社会教育活動に対しどのように、多くの方に参加いただくかが課題です。

○新型コロナウイルスの感染予防のために、地域の取組みが中止され、役割やノウハウの継承が難しくなっており、引き継ぎや再開への支援が必要となっています。

### 【通番34 各種団体サークル等活動支援事業】

#### 主な取り組み

○公民館サークル連絡協議会の会員が中心となり、市民ギャラリーの作品展示やオープンハウスを利用したサークル加入のための啓発活動を実施。

#### 評価（成果と課題）

○新型コロナウイルス感染症の影響で活動ができず、3年毎の更新時に更新されなかった団体が、少し活動されるようになって戻ってこられた影響で登録者数が増加しました。

- 利用件数は貸館休止や各部屋の定員制限などで伸びなかったため目標値に届かず 66.2%にとどまりました。
- コロナ禍においても、サークル活動への参加は市民にとっても、生きがいや健康の源となっており、できる限り感染対策を講じて活動できる場を提供できるよう対応していくことが必要となっています。
- 各サークルを見ても、全体的に高齢化が進んでおり、若年層が少ないことが課題です。

### 【通番 35 図書館サービスの推進・充実事業】

#### 主な取り組み

- 絵本について、子どもの自主性を育てる本棚作りという観点から、自分で本を探しやすい「書名の五十音順」へと絵本の並び替えを実施。
- 図書館利用が少ない世代（中学生から働く世代）向けに、司書による文学講座や、書評を通じたコミュニケーションゲーム「ビブリオバトル」、中高生による交流・発表の場「知恵の実」等の事業展開を実施。
- 子どもの人権に視点を置いた児童文学作家のあまんきみこ氏（本市在住）の読書講演会を実施。常設の「あまんきみこの本棚」を設置。
- 読書啓発活動を行っている市民有志によるテーマ展示や市役所各部署との連携による市が取り上げているテーマを取り扱った展示など、多様な視点による展示事業を行いました。
- 図書館利用困難者に図書の宅配・回収を行う「アウトリーチサービス」を継続実施。

#### 評価（成果と課題）

- 昨年に引き続き、利用者の学習意欲を満たすと思われる分野を研究し、情報の新鮮さ・信用性を精査した上で図書資料の収集・除籍を進めた他、蔵書構成を充実させるための蔵書計画案を作成しました。
- 郵送による貸出券の申請やスマートフォン・タブレット等の画面で貸出券バーコードの表示ができるようになり、利用者層の拡充に繋がりました。
- 図書館利用困難者へのアウトリーチサービスについて2名の新規登録があり、登録者は総計5名となりました。
- アウトリーチサービスの利用者が増加した場合の宅配業務に係る人員の確保、電話・ファックス・来館以外のやり取りによる貸出申込等のサービス申込者の身体状況に応じた対応ができる仕組み作りが必要です。
- 新鮮な情報入手できる蔵書構成（蔵書計画）を実現するため、過去 5 年間に一度も利用されていない図書資料を中心に除籍が必要です。

### 【通番 36 人権教育・啓発推進事業】

## 主な取り組み

- 12月4日(土)に「人権・男女共同参画フォーラム」と「障がい者児の人権を考える市民のひろば」を合同で開催。関係団体の発表、パネル展示、フリーアナウンサー笠井信輔さんの講演会などを実施。
- 全ての市民の人権が尊重され、個性と能力を発揮することができる社会を目指して、人権啓発作品(標語・ポスター・写真)を募集。3,986人から4,962件の応募。
- 人権啓発推進協議会と連携し、様々な人権に関するテーマの講座を4回開催。
- 暴力根絶と児童虐待防止を目的とした「パープル&オレンジリボンプロジェクト」をはじめ、男女共同参画講座等を実施。

## 評価(成果と課題)

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響で講座の中止や人数制限を余儀なくされたため、参加者数は4,916人となりました。
- オンラインでの講座の開催や、動画を用いた市民関係団体の発表など、コロナ禍において工夫を凝らした開催を行いました。
- 参加者からのアンケートによると、各種講座やイベント等において8割以上の方が「理解が深まった」「良かった」と回答いただきました。
- 未だ、同和問題や、女性、子ども、高齢者、障がいのある人、外国人等の様々な人権問題が存在しています。
- 近年は、ヘイトスピーチのほか、SNSなどのインターネット、LGBT等、新型コロナなどに関連した人権侵害など、新たな人権問題も発生しています。

## 【基本施策(9) 文化・スポーツの振興と文化財の保存活用】(通番 37~42)

### 【実現したい学びの姿】

市民が親しめる文化・芸術イベントやスポーツ大会の支援や運動・スポーツができる場所の提供により、文化・スポーツに関わる市民が増えています。また、文化財の魅力や価値についての市民への啓発が図られています。

### 【通番 37 長岡京芸術劇場推進事業】

#### 主な取り組み

- 長岡京芸術劇場事業として、市主催事業(1事業)、長岡京芸術劇場実行委員会主催事業(5事業)、文化奨励事業補助金助成事業(7事業)、芸術劇場ロゴマーク使用申請イベント(6事業)を企画。(感染症の影響により一部中止、12事業の実施)
- 長岡京芸術劇場実行委員会主催事業出演団体(2団体)による、市内小学校や高校への出張コンサートや演奏指導などの交流に支援を実施。
- 長岡京記念文化事業団に対し支援を行い、記念文化会館で音楽、映画等の16事業を実施。また、記念文化会館の老朽化に伴い、府にホールの修繕計画の策定及び財政的支援を要望。

#### 評価(成果と課題)

- 度重なる緊急事態宣言等により、イベントの縮小、中止を余儀なくされましたが、新型コロナウイルス感染対策等について参加団体と調整及び協力を十分に行い、安全に12事業を実施することができました。
- 新型コロナウイルスの感染対策を行いながら事業を実施したことにより、記念文化会館使用率は前年度の23.3%から40.9%に回復し、入場者数も客席数の利用を約半数として使用する方法が定着したこともあり、前年度の約3倍の35,883人まで回復しました。
- コロナ禍の影響で、文化芸術イベントが実施できないことで、当事者のモチベーションが下がってきており、地域の文化芸術活動の停滞が進んでいます。

### 【通番 38 文化活動推進・支援事業】

#### 主な取り組み

- 長岡京市文化協会主催事業に補助金を交付。感染症の影響により、「市民文化まつり」「長岡京展」を規模縮小開催。また「日本舞踊」をテーマとした「文化講座」や「各種市民文化教室」の開催を支援。
- 前年度に続き、「新しい生活様式に対応した長岡京市文化奨励事業補助金」の内容を組み込んだ「長岡京市文化奨励事業補助金」制度により、文化芸術に触れる機会を提供する実施団体の自主的な文化・芸術活動に対し支援を実施。

### 評価（成果と課題）

- 「名月の宴」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止を余儀なくされましたが「市民文化まつり」は規模を縮小し、芸能発表のみ開催することができました。ただ、展示発表は会場がワクチン接種会場になったことで中止となり、参加者数は減少しました。
- 「長岡京展」は向日市や大山崎町へ対象地域を拡大したことや、第30回目の開催を記念し特別賞を設けたこともあり、参加者数は微増し、来場者数もコロナ禍前の平成30年度を超える約 2,400 名となりました。
- コロナ禍の影響で、人流制限や施設（会場）の利用制限等もあり、事業や活動が思うように実施できず、地域の文化芸術活動の停滞が進んでいます。

### 【通番 39 総合型地域スポーツクラブ推進事業】

#### 主な取り組み

- スポーツ行事等の実施にあたり、関係団体と調整を行い、本市のガイドラインに準じた感染対策ガイドラインを作成。
- 総合型地域スポーツクラブ未設立地区に対しては、長岡京市総合型地域スポーツクラブ協議会や関係機関等と連携し、設立に向けての働きかけを継続。

#### 評価（成果と課題）

- 現在8つの校区で設立された総合型地域スポーツクラブを中心に、校区住民のスポーツ実施の機会拡大につながっています。
- 昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大により事業開催ができなかった校区イベントがありましたが、感染対策を徹底しながら、可能な限り、実施されました。
- コロナ禍の影響により、総合型地域スポーツクラブの事業が実施されず、地域スポーツの振興につなげることが困難な社会となっており、地域の絆や地域コミュニティの醸成が停滞しています。
- 未設立校区では総合型設立に向けた、組織の設立や実施意欲を高めるための活動が必要です。

### 【通番 40 スポーツ交流推進事業】

#### 主な取り組み

- 若葉カップ実行委員会へ補助金を交付し、2年ぶりに「第 37 回若葉カップ全国小学生バドミントン大会」を開催。
- 小中学校施設を開放し、学校開放事業及び夜間照明施設事業を行い、市民がスポーツを行う環境を提供。
- 感染症の影響により、2年連続で「長岡京市民大運動会」は中止としたが「市民スポーツフェスティバル」はガイドラインを作成し、感染症対策を徹底した上で、開催。

### 評価（成果と課題）

- 「第 37 回若葉カップ全国小学生バドミントン大会」では、無観客など平常とは異なる大会での開催となったため、デジタルプロモーション事業として、PR 動画の作成、フォトライブラリー、試合のライブ配信等により、選手への思い出づくりやモチベーションの向上、本大会の魅力を世界に向け発信するなど初めてとなる取り組みを実施しました。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、学校体育施設利用を 4 月末～6 月、8 月～9 月、1 月末～3 月を期間休止としたため、学校開放利用件数は例年を大幅に下回る結果となりました。
- 「市民スポーツフェスティバル」として、各校区で「総合型スポーツフェスティバル」を開催しコロナ禍でもスポーツができる場を提供しました。
- スポーツイベントについて、感染対策を両立しながら、どのように開催・復活していくかが課題となっています。
- 「若葉カップ小学生全国小学生バドミントン大会」は、長年、全国のクラブチームが参加する大会として、本市で開催されていますが、より一層、市民や全国に認知されるように取り組む必要があります。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、「市民大運動会」が2年連続で中止になるなど、市民が参画される事業が少なくなり、地域の絆、地域コミュニティの醸成が停滞しています。
- 学校開放の利用者や「市民スポーツフェスティバル」の参加者が固定化しており、新たな利用者・参加者の増加が進んでいません。

### 【通番 41 スポーツ施設環境の整備】

#### 主な取り組み

- 設備・備品の修繕や更新を適宜実施。
- 新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインの見直しを実施。

#### 評価（成果と課題）

- コロナ禍により、緊急事態宣言により施設利用が休止（4～5 月、8～9 月）や時短営業となった期間があったため、利用者数が目標値を大きく下回っています。
- 西山公園体育館は、トランポリンの購入、高圧受変電設備の改修工事を行いました。その他、館内の消防設備等の修繕を行いました。
- スポーツセンターは、高圧受変電設備、電話設備の修繕を実施しました。
- 西山公園体育館、スポーツセンターの管理運営等について、指定管理者のスポーツ協会等と協議検討を行いました。
- 西山公園体育館及びスポーツセンターについては、老朽化する施設設備において、安全を最優先に、緊急度に応じた設備の計画的な更新を行う必要があります。
- スポーツセンターについては、今後の再整備のあり方を整理していく時期に来ています。

## 【通番 42 総合的な文化財保存活用の推進】

### 主な取り組み

- 京都府立大学生と長岡京市ふるさとガイドの会との協働によるフィールドワークを実施。フィールドワークの報告に基づき、市内で活動する観光団体や市民を交えてワークショップを開催。
- 長岡京市文化財保存活用推進会議を設置し、長岡京市文化財保存活用地域計画（素案）について検討。あわせて、長岡京市文化財保護審議会に諮り、意見を聴取。

### 評価（成果と課題）

- 文化財関係者だけでなく、市民や観光団体、地元企業などの参画を得て、長岡京市の歴史文化の特徴や長岡京らしさについての整理ができ、それに基づき長岡京市文化財保存活用地域計画の素案を作成しました。
- 市民が歴史や文化財に親しむ機会を増やすための歴史資料展示室が未整備です。
- 文化財の調査・研究と保存・活用を確実に実施するため、多様な主体が参画した体制整備や財源確保が必要です。

### 学識経験者の意見

- 感染症の影響により、文化・スポーツ活動等へのモチベーションが低下している状況からどう回復していくかが課題である。若者をどう取り込んでいくかも含め、具体的な施策を展開してほしい。
- 文化財に関し、大学との連携が行われているのは意味ある取組である。学生にとっての学びの場の提供であると同時に、長岡京市の活動に関わり続けてもらえるようにできれば望ましい。そのための追跡調査を行ってはどうか。
- 現在も広報紙の全戸配布や SNS の活用などもなされているが、情報の届きにくい世帯への支援ができるよう、情報発信のあり方については念頭においてほしい。



## 今後の方向性

<b>通番31 公民館市民講座開設事業</b>
○引き続き、アンケート結果や公民館運営審議会の意見をもとに、市民のニーズ把握に努め、講座時期や内容を精査し、全体の講座上限数などを検討し市民の実生活に即した講座を企画していきます。
<b>通番32 中央生涯学習センター事業</b>
○引き続き講座やイベントなどを実施し、生涯学習、施設利用のきっかけづくりを行っていきます。 ○リモート講座や研修などの利用者のニーズに答える取組みについて、指定管理者とともに進めていきます。
<b>通番 33 社会教育推進事業</b>
○引き続き社会教育活動団体の活動費の支援を行います。 ○必要な活動を精査し、その活動をどのように継続していくか、団体と共に協議し、調整していきます。 ○活動を再開される際は、感染対策について情報提供、共有をはかります。
<b>通番 34 各種団体サークル等活動支援事業</b>
○新型コロナウイルス感染症については、感染状況を注視しながら、公民館としてガイドラインを遵守する中で、安心・安全に利用していただけるよう対応していきます。 ○会員との意見交換等を通して、見学や体験などの機会となるオープンハウスを引き続き実施しサークル会員確保につなげていきます。
<b>通番 35 図書館サービスの推進・充実事業</b>
○アウトリーチサービス利用者が増加した場合の配送体制作りに向けて、シルバー人材センターの活用等を検討します。 ○蔵書計画の中で社会事情の変動に合わせて内容的に古くなった本を除籍し、開架書架における新規受入図書の更新を意識しながら、新鮮で魅力ある本棚づくりを目指します。
<b>通番 36 人権教育・啓発推進事業</b>
○複雑、多様化する人権問題について、テーマや開催方法などを工夫して、啓発に取組みます。 ○市民団体や学校、関係機関と協力、連携しながら、人権啓発事業を実施します。
<b>通番 37 長岡京芸術劇場推進事業</b>
○WITH コロナにおいて、地域の文化芸術活動の再開、復活のためにも、文化芸術団体と調整・協議を行い、連携協力しながら、感染対策を両立して、事業が実施できるよう検討・工夫及び支援を行っていきます。
<b>通番 38 文化活動推進・支援事業</b>
○WITH コロナの中においても、地域の文化芸術活動の再開、復活のため、文化芸術関連団体と連携協力しながら、事業実施に向けた検討・工夫、実施団体の支援や事業PR等に取り組んでいきます。
<b>通番 39 総合型地域スポーツクラブ推進事業</b>
○WITH コロナにおいて、地域スポーツが、地域の絆や地域コミュニティの醸成、復活につながるよう、関係団体と調整・協議を行い、連携協力しながら、感染対策を両立して、事業が実施できるよう検

討・工夫を行っていきます。

○未設立校区では総合型設立に向けて、引き続き、長岡京市スポーツ協会と連携協力しながら「核となる人や団体」の発掘育成を行い、総合型地域スポーツクラブの意義について啓発や、その必要性について理解を求めていきます。

○既設立校区に対しては、地域スポーツ振興の拠点となるクラブハウスの整備に向けて調整を行っていきます。また、国が進めている「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度」については慎重に検討していく必要があります。

#### 通番 40 スポーツ交流推進事業

○地域の絆、地域コミュニティの醸成、復興につなげるため、「新しい生活様式」をスポーツに取り入れ、実施可能な市民スポーツの推進を図ります。

○イベントの実施、スポーツ施設、学校開放事業等において、感染対策を両立し、利用者や参加者が安心安全にスポーツ活動を行えるよう国や府の方針に従いながらガイドラインを改訂していきます。

○学校開放の利用者や「市民スポーツフェスティバル」の参加者の固定化改善のために、住民ニーズにあわせたプログラムを考案するなど、少しでも多くの市民がスポーツに触れることができる環境が作れるよう検討します。

#### 通番 41 スポーツ施設環境の整備

○西山公園体育館は、個別施設計画に基づく対応として最優先項目である館内のLED化をはじめ、緊急度に応じた設備の計画的な更新を行っていきます。

○スポーツセンターは、当面必要となる施設の安全性の確保、機能維持に向けた対応を行いながら、公共施設における再編整備構想検討部会や市スポーツ推進審議会等を通じ、今後の施設のあり方等の整理を行っていきます。

#### 通番 42 総合的な文化財保存活用の推進

○これまで進めてきた文化財の調査・研究事業を継続して進めるとともに、令和4年度に文化財の総合的な計画である長岡京市文化財保存活用地域計画を作成します。地域計画作成後は、新庁舎での歴史資料の展示公開や恵解山古墳をはじめとする「乙訓古墳群」の保存・整備、未調査の歴史資料の収集・調査・保存などの具体的な取組を順次進めていきます。

基本目標3 生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり  
 基本施策(8) 生涯を通じた多様な学びの充実と人権教育の推進(通番31~36)

【目標指標】

通番	目標指標	公民館主催講座の参加者数(児童室一般開放を除く)					
31	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	6,013 単位 (令和元年度) 人	目標	6,130	6,190	6,250	6,310	6,370
		実績	3,877				

通番	目標指標	中央生涯学習センター貸室利用率					
32	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	48.7 単位 (令和元年度) %	目標	30.0	50.0	50.0	50.0	50.0
		実績	30.1				

通番	目標指標	社会教育活動支援団体数(補助金交付団体数)					
33	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	13 単位 (令和元年度) 団体	目標	13	13	13	13	13
		実績	12				

通番	目標指標	公民館(社会教育ホール)登録団体件数					
34①	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	166 単位 (令和2年8月末現在) 団体	目標	170	175	180	185	190
		実績	182				

通番	目標指標	公民館(社会教育ホール)登録団体による利用件数 【児童室・焼成炉室除く】					
34②	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	2,869 単位 (令和元年度) 件	目標	2,900	2,930	2,960	2,990	3,020
		実績	1,921				

通番	目標指標	1冊あたりの年間稼働率(回転数)					
35	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	1.58 単位 (令和元年度) 回	目標	1.70	1.70	1.70	1.70	1.70
		実績	1.72				

通番	目標指標	人権啓発事業への参加者数					
36	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	6,152 単位 (令和元年度) 人	目標	5,700	5,950	6,200	6,200	6,200
		実績	4,916				

基本施策(9) 文化・スポーツの振興と文化財の保存活用(通番37~42)

【目標指標】

通番	目標指標	長岡京芸術劇場の事業数					
37	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	21 単位 (令和元年度) 事業	目標	15	24	25	26	27
		実績	12				

通番	目標指標	文化活動団体事業における参加者数(出品者、出演者、鑑賞者)					
38	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	7,092 単位 (令和元年度) 人	目標	6,000	10,800	10,900	11,000	11,100
		実績	3,876				

通番	目標指標	総合型地域スポーツクラブの設立数					
39	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	8 単位 (令和元年度) 小学校区	目標	8	8	9	9	10
		実績	8				

通番	目標指標	学校開放・夜間照明利用件数(注:工事による利用枠減少(令和4年~6年)を踏まえて目標を設定しています。)					
40	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	9,212 単位 (令和元年度) 件	目標	9,800	9,400	9,400	9,400	9,800
		実績	5,038				

通番	目標指標	体育館等施設利用者数(西山公園体育館・スポーツセンター)					
41	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	268,232 単位 (令和元年度) 人	目標	240,000	272,500	275,000	277,500	280,000
		実績	153,657				

通番	目標指標	文化財保存活用地域計画の策定、新庁舎での歴史資料の展示公開					
42	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	— 単位 —	目標	文化財保存活用地域計画の素案作成	文化財保存活用地域計画の作成	新庁舎歴史資料展示内容検討	新庁舎歴史資料展示設計	新庁舎歴史資料展示施工
		実績	長岡京市文化財保存活用地域計画の素案作成				

## 基本目標4 子どもを中心につながる地域の学びの場の推進

### 【基本施策(10) 家庭・地域・学校の連携・協働による教育の充実】(通番43～47)

#### 【実現したい学びの姿】

家庭・地域・学校がそれぞれ連携・協働し、子どもたちの成長を見守る体制が充実できています。また、地域の中で安心して子育てしている保護者が増えています。

#### 【通番43 地域見守り活動の推進】

##### 主な取り組み

- 校区ごとにパトロール等を実施。「青少年の非行・被害防止全国強調月間」(7月)、「子供・若者育成支援強調月間」(11月)に懸垂幕やのぼりの掲出等、青少年健全育成の啓発活動を実施。少年補導委員研修会(12月)の実施(参加者54名)。
- 安全・安心をテーマにした「安全・安心長岡京市子ども絵画展」の開催(出品者242人、来場60人)。

##### 評価(成果と課題)

- 地域の安全安心をテーマとした「安全・安心長岡京市子ども絵画展」の開催により、子どもたちの防犯意識を高めることにつながりました。また、地域団体が連携して夜間パトロールの実施やあいさつ運動などを行い、子どもたちを見守ることができました。感染症の影響により全体として事業は縮小しましたが、実施した事業には例年通り多くの参加をいただくことができました。
- 定年退職後も働く方や共働き世帯が増えるなか、どのように負担を減らし、多くの地域の方々に参加いただくかが課題です。
- 新型コロナウイルスの感染予防のために、地域の取組みが中止され、役割やノウハウの継承が難しくなっており、引き継ぎや再開への支援が必要となっています。

#### 【通番44 地域で支える中学校教育支援事業】

##### 主な取り組み

- 学習支援(英検対策、補講)・部活動支援・図書ボランティア活動、授業補助(英語)などを実施。

##### 評価(成果と課題)

- 感染症の影響により日数は制限されたものの、中学校、地域コーディネーター、地域ボランティアが連携し、各学校のニーズに応じた支援事業を行うことができました。
- ボランティアの新規登録者は増えていないため、募集と活用について検討が必要です。

### 【通番 45 家庭教育に関する学びの機会の充実】

#### 主な取り組み

○家庭教育に関する講座（親学びフォーラム、京都府 PTA 指導者研修会など）等の周知。

#### 評価（成果と課題）

- 「親子のコミュニケーション」「コロナ禍での親子の関係づくり」「ネット社会に子どもと向き合う方法」などについて保護者に学んでいただくことができました。
- ひとり親世帯や共働き世帯の増加により、平日の昼間の時間帯に研修に参加することへの負担感が増えています。

### 【通番 46 教育に関する保護者相談体制の充実】

#### 主な取り組み

- 臨床心理士等による心理相談やプレイセラピー（児童生徒の遊戯療法）、特別支援教育士による発達検査と就学相談、児童精神科医によるDr来所相談などを実施。
- 長岡京市公式 LINE で教育相談の受付を開始。相談カードを小学 1 年生に、相談チラシを児童生徒全員に配布し、困った時に相談できる場所があることを周知。
- 教育相談・就学相談について大学教授等によるスーパーバイズを実施。
- 教育相談の実質件数 1,739 件、電話相談件数 515 件。
- 就学相談の実質件数 1,046 件、電話相談件数 447 件。
- 発達検査 117 件。

#### 評価（成果と課題）

- 教育相談では、令和 3 年 9 月から開始した LINE による相談受付から電話相談や就学相談につながるケースがありました。
- 児童生徒を取り巻く学校教職員や、子育て支援課等の関連機関と連携した相談活動を行いました。
- 発達検査の結果をもとに、担任、保護者の面談を通じて認知の特性を把握し、方針を立てて進めました。（WISC-IV、新版k式発達検査 2020、LCSA）
- 必要に応じケース会議を行い、教育相談員と情報交流をしました。
- 市内小中学校のスクールカウンセラーとの連絡会を行いました。
- 5 月以降、不登校や登校渋りの相談がかなり多くなりました。
- 教育相談では、相談ケース、発達検査数が増加しており、相談件数がこれ以上増えると、相談員の増える必要があります。また、複雑な問題が絡み合っているケースが増えているため、教育相談、就学相談にとどまることなく相談員同士が連携し、児童生徒を見ていく必要があります。

**【通番 47 児童館子どもの居場所づくり事業（子育てサロン）】**

**主な取り組み**

○児童館において、乳幼児親子向けの子育てサロンを開催。

**評価（成果と課題）**

○児童館の子育てサロンは、目標設定の人数を大きく上回る乳幼児親子の来館があり、満足度も非常に高くなっています。

○感染症拡大防止のため、人数制限を設けて児童館の事業運営を行う必要があります。

## 【基本施策(II) 子どもを健全に育む場の充実】(通番 48～50)

### 【実現したい学びの姿】

子どもたちが、多様な場所において体験や交流など充実した時間を過ごすことで、健全に育っています。

### 【通番 48 放課後児童クラブ育成事業】

#### 主な取り組み

- 長四小、長九小の新施設に係る実施設計を実施。
- 保育環境の維持向上のため、小学校と連携し、保育スペースを確保。感染症対策として、消毒液等の消耗品や備品の確保、設備の更新を実施。
- 長四小(令和5年度から民間委託予定)の保護者会に向けて説明会を実施。

#### 評価(成果と課題)

- 円滑な委託開始に向け、保護者会に説明会を実施しました。当日の質疑応答に加え、後日質問書へ回答するなど、保護者の理解が得られるよう丁寧な説明に取り組みました。
- 消毒液を各クラブに配布するとともに、古くなり効きが悪くなっている四小、長法寺小の空調機器を更新するなどの換気対策を充実することで、感染症対策の充実を図りました。
- 八小Aについて、校舎の空き教室を借用することで密集・密接を解消する保育スペースを確保しました。また神足小では、小学校の協力のもと、2組の保育室を体育館会議室から北校舎1階の空き教室へ移転し、2つのクラスが近くで保育できるよう環境を整えました。
- 入会児童数の増加に加え、新型コロナウイルス感染症への対応として3つの密を避けながらの保育が求められていますが、これまで以上に児童1人あたりの専用区画面積を確保することが困難となっています。

### 【通番 49 すくすく教室推進事業】

#### 主な取り組み

- 校区ごとにコーディネーターを中心とした運営組織により事業を運営。
- 実施した校区では、のべ開催日数32日、プログラム数36、参加児童数924人。感染症の影響により事業中止とした校区では、再開に向けた準備や学校との協議を実施。

#### 評価(成果と課題)

- 新型コロナウイルス感染症の影響により活動を中止した校区がありましたが、実施した校区では、「すくすく教室の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」をもとに小規模や学年別、屋外での実施など



感染対策を工夫されました。中止の期間、児童と地域のボランティアの方や、地域のボランティア同士のつながりが減っていましたが、再開や準備を通じ、少しずつ、地域の連携やつながりを再び取り戻していただいています。

○地域住民による運営を継続するため、コーディネーターやボランティアの人材確保が必要です。また、新型コロナウイルス感染症の影響により活動を中止した校区では、再開される際、感染対策や他校区の状況の共有など、支援が必要です。

#### 【通番 50 児童館子どもの居場所づくり事業（子どもの遊び場等）】

##### 主な取り組み

- くらぶ活動（和太鼓等）を実施。（感染症拡大の影響により、4・5月及び1月20日以降は休止）
- 感染症対策として、宿泊を伴うものについては宿泊を伴わない形に変更して実施、不特定多数の集まる事業は中止。
- 児童教育相談員を配置することにより、子どもにとって学習や学校などの相談がしやすい環境を提供。

##### 評価（成果と課題）

- 感染症拡大に伴う休館により、来館者数の目標である1,800人には到達しませんでした。令和2年度の1,645人から5名増の1,650名の来館がありました。
- 小学生914人、中学生51人、高校生8人が学習室で宿題や自主学習に取り組みました。
- 児童館では、新型コロナウイルス感染症の子どもへの感染が収まらない状況の中、子どもの他学年・他校との交流もあるため、工夫して開催していく必要があります。

## 学識経験者の意見

- 感染症の影響により、地域での活動へのモチベーションが低下している状況からどう回復していくかが課題である。例えば、夜間パトロールは子どもたちの見守りという目的と同時に、参加者の健康づくりに役立つ側面もあり、見守りルートや距離を発信することで仲間づくりにつなげているという参加者もいる。そのように、負担感なく取り組める仕組みづくりが必要である。
- 地域ボランティア等の人材の確保に向け、具体的な方策が必要である。たとえば、異なる部署のボランティア登録間の情報交換も一つの方法である。
- 相談体制については、現在もケース会議等が行われているが、現場の状況と専門家の考える支援が乖離することのないよう、引き続き情報共有を図りながら進めてほしい。

## 今後の方向性

### 通番 43 地域見守り活動の推進

- 「地域の子どもの地域で育てること、見守ること」の重要性を理解いただくため、少年補導委員の目的や役割の周知に努めます。
- 社会情勢に合わせた活動を行っていただくため、必要に応じ取り組み内容の見直しを行います。
- 少年補導委員に対し研修を実施し、目的を共有、事業内容への理解を図ります。

### 通番 44 地域で支える中学校教育支援事業

- 学校において、授業補助、部活動補助などの学校支援の他に、地域とともに行う取組のニーズがある場合は、制度が活用できることを周知します。
- 中学校支援ボランティアの制度について、広報や HP、チラシなどにより周知するとともに、各校のボランティアの活用方法、活動内容について、会議の場を通じて、学校、コーディネーター間の情報共有をはかります。

### 通番 45 家庭教育に関する学びの機会の充実

- オンラインの研修などについても周知案内を行います。
- 中央公民館など市内で実施される講座についても、PTA への周知案内を検討します。

### 通番 46 教育に関する保護者相談体制の充実

- スクールカウンセラーとの連絡会を次年度も継続して開催します。
- 教育相談、就学相談が連携しあって児童生徒を見ていきます。
- 年度当初に小学 1 年生を対象に相談カードを配布します。

### 通番 47 児童館子どもの居場所づくり事業(子育てサロン)

- 新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに則り事業を行います。

#### 通番 48 放課後児童クラブ育成事業

- 長四小放課後児童クラブの委託開始に向けてプロポーザルを実施し、受託業者を決定します。決定後は、受託業者による引継ぎ保育を開始し、円滑な委託開始を目指します。
- 九小について、工事完了後の速やかな移転作業と追加備品の手配を行います。
- 学校の協力のもと、教室や会議室、体育館等の様々な資源を活用しながら、放課後児童クラブの保育スペース確保を行います。

#### 通番 49 すくすく教室推進事業

- 地域の人材の力を活用した運営が継続できるよう、校区運営委員会の活動を支援します。
- 「京のまなび教室」や「生涯学習人材登録ボランティア」等の外部講師、ボランティア講師の情報を校区運営委員会と共有し、新しい内容の講座実施を支援します。
- 放課後子ども総合プラン（放課後児童クラブとすくすく教室の一体型）を推進するため、放課後児童クラブからの参加を促すように活動の充実に努めます。
- 再開された校区の情報や感染対策の方針の共有など、実施に向けた支援を行います。

#### 通番 50 児童館子どもの居場所づくり事業（子どもの遊び場等）

- 新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに則り、特に宿泊及び飲食を伴う事業を中心に事業の見直しを行います。



## 基本目標4 子どもを中心につながる地域の学びの場の推進

基本施策(10) 家庭・地域・学校の連携・協働による教育の充実(通番43~47)

### 【目標指標】

通番	目標指標	地域の育成組織の事業における来場者・参加者数					
43	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	1986 単位 (令和元年度) 人	目標	1,120	1,830	1,990	2,020	2,040
		実績	356				

通番	目標指標	地域で支える中学校教育支援事業年間活動延べ日数(4校合計)					
44	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	1204 単位 (令和元年度) 日	目標	1,180	1,400	1,400	1,400	1,400
		実績	1,047				

通番	目標指標	家庭教育に関する講座等の情報提供					
45	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	情報提供の 単位 実施 -	目標	情報提供の 実施	情報提供の 実施	情報提供の 実施	情報提供の 実施	情報提供の 実施
		実績	情報提供の 実施				

通番	目標指標	教育相談の実施					
46	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	教育相談の 単位 実施 -	目標	教育相談の 実施	教育相談の 実施	教育相談の 実施	教育相談の 実施	教育相談の 実施
		実績	教育相談の 実施				

通番	目標指標	児童館利用者の満足度(乳幼児親子)					
47①	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	78 単位 (令和元年度) %	目標	80	80	80	80	80
		実績	92				

通番	目標指標	総来館者数(乳幼児親子)					
47②	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	4,744 単位 (令和元年度) 人	目標	200	300	400	600	800
		実績	485				

基本施策(II) 子どもを健全に育む場の充実(通番48~50)

【目標指標】

通番	目標指標		狹隘化・老朽化した施設の整備					
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
48	—	単位	目標	—	長岡第九小 整備	—	長岡第四小 整備	—
		—	実績	—				

通番	目標指標		すくすく教室における1教室当たりの参加児童数					
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
49	21 (令和元年度)	単位	目標	21	21	22	22	23
		人	実績	26				

通番	目標指標		児童館利用者の満足度(乳幼児親子以外)					
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
50①	78 (令和元年度)	単位	目標	80	80	80	80	80
		%	実績	74※				

※くらす活動の満足度調査は、例年は年度の最終に児童が回答。令和3年度は感染症の影響により、保護者宛てに電子メールで実施したため回答数が減少。

通番	目標指標		総来館者数(乳幼児親子以外)					
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
50②	10,111 (令和元年度)	単位	目標	1,800	2,700	3,600	5,400	7,200
		人	実績	1,650				